

令和3年度  
シラバス

専攻科保育福祉専攻

2021年度 専攻科 保育福祉専攻 履修表

領域	授業科目	開講単位数	必修単位数	選択単位数	介護福祉士必修	時間数	前期	後期	担当	備考 ★は実務経験のある教員が担当する科目	
人間と社会	社会の理解	2	2		2	30	2		大川		
介護	介護の基本 I	6	6		6	180	120	3	3	大川、角	★
	介護の基本 II	3	3		3		60		3	大川、 鶴殿、水上	生活の理解 1 住環境コーデ対策・インフ トセラピー 2
	コミュニケーション技術 I	1	1		1	60	30	1		折居	
	コミュニケーション技術 II	1	1		1		30		1	井邑	
	生活支援技術 I	4	4		4	300	120	2	2	角	★
	生活支援技術 II	2	2		2		60	2		水上 谷口(有浦)	セラピューティックケア1 手話1
	生活支援技術 III	2	2		2		60	2		重松 (戸田)	栄養調理
	生活支援技術 IV	2	2		2		60		2	大久保 河村	福祉レクリエーション1 家政1
	介護過程 I	1	1		1	150	30	1		折居	
	介護過程 II	4	4		4		120	2	2	角	★ 現場演習含
	介護総合演習	2		2	2	60		1	1	緒方、角	
	介護実習 I	5		5	5	216	56			緒方、角	7日間
	160						20日間				
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	2	2		2	30	2		萬竹		
	認知症の理解	4	4		4	60	2	2	萬竹・折居		
	障害の理解	2	2		2	30	2		大川		
	こころとからだのしくみ	4	4		4	60	2	2	緒方、鶴殿	★	
医療的ケア	医療的ケア	4	4		4	60		4	緒方	★	
	キャリア形成ゼミⅢ	2	2			60	1	1	角、大川		
	保育原論	2	2			30		2	古林		
合計		55	48	7	51	1,326					

ポイント (単位×5)	D P	①介護福祉士として必要な専門知識・技術を修得している	②福祉や介護に関する知識・技能を生かし、多面的に考察し、様々な状況に対応することができる	③福祉や介護を取り巻く様々な問題に関心を持ち、ニーズに応え続けようと臨むことができる	④慈しみの心で人と接し、社会に貢献できる実践力を身につけている	科目ナンバリング
	C P	専攻科保育福祉専攻は、保育士資格を取得していることを受験資格とする1年課程の男女共学の介護福祉士養成施設である。修了認定の方針に掲げる目標を達成するために、幼児保育学科で学んだ知識を、専攻科で学ぶ人間と社会、介護、こころとからだのしくみ、医療的ケアのカリキュラムに繋げることにより保育・介護・福祉の学びをより質の高いものへと導く。また、確かな就業能力を身につけるための専攻科独自の科目を開講する。				
10		4		3	3	S2021-1201-01
30		7	11	7	5	S2021-1202-02
15		15				S2021-1202-03
5			3		2	S2021-1202-04
5			3		2	S2021-1202-05
20		12	8			S2021-1202-06
10		6		2	2	S2021-1202-07
10		6	2	2		S2021-1202-08
10		6	2	2		S2021-1202-09
5			3	2		S2021-1202-10
20		5	5	5	5	S2021-1202-11
10			7	3		S2021-1202-12
25		3	8	7	7	S2021-1202-13
10		7	1	1	1	S2021-1203-14
20		6	2	10	2	S2021-1203-15
10		7		3		S2021-1203-16
20		20				S2021-1203-17
20		20				S2021-1204-18
10			3	4	3	S2021-1207-19
10			4	4	2	S2021-1206-20
275		124	62	55	34	

科目	社会の理解		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 大川 絹代		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践に必要な知識として、介護保険や障害者総合支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、介護福祉士としての職業倫理感を養う。さらに、我が国の社会保障基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。また、高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	社会保障制度、高齢者福祉制度、障害者福祉制度の基本的な考え方と仕組みを理解することができる。	DP1、3	定期試験及びレポートで6割以上解答できる。	
2.	人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的考え方としくみを理解することができる。	DP3	講義中の質問への解答、レポートで考え方をまとめ解答することができる。	
3.	事例を通して、どのような制度を利用することができるかグループワーク等を通して理解できる。	DP4	講義中の発表、レポートで考え方をまとめ解答することができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 社会と生活のしくみ（生活の基本機能、ライフスタイルの変化）		教科書1章1.2.3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
2.	社会と生活のしくみ（社会・組織の機能と役割、地域社会における生活支援）		教科書1章4.5.6.7熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
3.	地域福祉の発展		教科書2章1熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
4.	地域共生社会		教科書2章2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
5.	地域包括ケア		教科書2章3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
6.	社会保障制度（社会保障制度の基本的考え方と歴史的展開）		教科書3章1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
7.	社会保障制度（社会保障制度のしくみ）		教科書3章3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
8.	社会保障制度（現代社会と社会保障制度）		教科書3章4熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
9.	高齢者保健福祉と介護保険制度（高齢者保健福祉の動向）		教科書4章1熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
10.	高齢者保健福祉と介護保険制度（高齢者保健福祉に関する法体系）		教科書4章2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
11.	高齢者保健福祉と介護保険制度（介護保険制度）		教科書4章3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
12.	障害者保健福祉と障害者総合支援制度（障害者保健福祉の歴史的展開と関連する法体系）		教科書5章1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
13.	障害者保健福祉と障害者総合支援制度（障害者総合支援法）		教科書5章3熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
14.	介護実践に関連する諸制度（個人の権利を守る制度・施策）		教科書6章1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
15.	介護実践に関連する諸制度（保健医療に関する制度・施策）		教科書6章3.4熟読（2時間）	講義内容、配布資料まとめ（2時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解」中央法規			
参考書	適宜配布			
学習成果の評価方法	試験70%、レポート20%、授業参加度10%。レポートはフィードバック後に返却する。			
特記すべき事項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。			
質問・相談等の受付	質問などがある場合にはオフィスアワー（月曜15時～16時30分）に研究室へ来てください。			

科目	介護の基本（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 大川 絹代		授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。さらに「尊厳の保持」「自立支援」について理解し、「介護を必要とする人」を生活の視点からとらえ、介護における安全やチームケアについて理解する。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	DP1	定期試験およびレポートで6割以上解答できる。	
2.	要介護者の尊厳と自立支援の基本的な知識や技術を理解する。	DP2,3	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護について理解する。	DP4	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 介護福祉士の基本理念		教科書1章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
2.	日本の社会福祉史における介護福祉の位置づけ		教科書1章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
3.	介護福祉制度の成り立ちと発展 - 1 人口減少と多死社会		教科書1章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
4.	介護福祉制度の成り立ちと発展 - 2 社会現状と地域社会の変化		教科書1章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
5.	介護福祉制度の成り立ちと発展 - 3 家族機能の変化		教科書1章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
6.	介護ニーズの変化 - 1 介護従事者の多様化		教科書1章-2熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
7.	介護ニーズの変化 - 2 介護問題の複雑化・多様化		教科書1章-3熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
8.	介護ニーズの変化 - 3 地域包括ケアシステムのあり方		教科書1章-3熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
9.	介護福祉の基本理念 - 1 尊厳を支える介護		教科書1章-3熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
10.	介護福祉の基本理念 - 2 自立を支える介護		教科書1章-3熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
11.	介護福祉士の倫理		教科書3章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
12.	介護福祉士の専門性と専門職としての倫理 - 1 職業倫理		教科書3章-2熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
13.	介護福祉士の専門性と専門職としての倫理 - 2 倫理基準・行動規範		教科書3章-2熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
14.	介護福祉士の専門性と専門職としての倫理 - 3 法令遵守		教科書3章-2熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
15.	まとめ		教科書1.3章熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本」中央法規			
参考書	適宜配布			
学習成果の評価方法	試験70%、レポート20%、授業への参加度10%。レポートはフィードバック後返却します。			
特記すべき事項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。			
質問・相談等の受付	質問などがある場合にはオフィスアワー（月曜15時～16時30分）に研究室へ来てください。			

科目	介護の基本（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 大川 絹代		授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。さらに「尊厳の保持」「自立支援」について理解し、「介護を必要とする人」を生活の視点からとらえ、介護における安全やチームケアについて理解する。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	DP1	定期試験およびレポートで6割以上解答できる。	
2.	要介護者の尊厳と自立支援の基本的な知識や技術を理解する。	DP2,3	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護について理解する。	DP4	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	学習成果について（評価方法、評価基準） 介護福祉士の役割と機能		教科書2章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
17.	介護福祉士の定義1 社会福祉士及び介護福祉士法、資格取得の状況		教科書2章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
18.	介護福祉士の定義2 介護の機能と役割		教科書2章-2熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
19.	介護の機能と役割1 介護福祉士の機能（介護人材の中核的役割・リーダー的役割）		教科書2章-3熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
20.	介護の機能と役割2 介護人材のキャリアパス		教科書2章-4熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
21.	介護福祉士の活動の場と役割1 地域包括ケアシステム		教科書4章-1熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
22.	介護福祉士の活動の場と役割2 介護福祉士の役割		教科書4章-2熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
23.	介護福祉士の活動の場と役割3 介護予防		教科書4章-3熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
24.	介護福祉士の活動の場と役割4 地域生活		教科書4章-2熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
25.	介護福祉士の活動の場と役割5 災害時と介護福祉士の役割		教科書4章-4熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
26.	介護福祉士の活動の場と役割6 胃腸的ケアと介護福祉士の役割		教科書4章-4熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
27.	介護保険制度1 目的と役割		配布資料熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
28.	介護保険制度2 サービスの種類と利用方法		配布資料熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
29.	障害者総合支援法1 目的と役割		配布資料熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
30.	障害者総合支援法2 サービスの種類と利用方法		配布資料熟読（1時間）	講義内容、配布資料のまとめ（1時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座3 介護の基本」中央法規			
参考書	適宜配布			
学習成果の評価方法	試験70%、レポート20%、授業への参加度10%。レポートはフィードバック後返却します。			
特記すべき事項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。			
質問・相談等の受付	質問などがある場合にはオフィスアワー（月曜15時～16時30分）に研究室へ来てください。			

科目	介護の基本（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から取れるための学習。介護における安全やチームケアについて理解する。介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みの理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護・通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。</p>			*この授
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	DP2、 3	介護福祉士として必要なコミュニケーション能力・観察力等のアセスメント能力を身につけ、介護福祉の専門性と倫理を理解できている。	
2.	要介護者の尊厳と自立(自律)支援するための介護の基本的な知識や技術を習得する。	DP1、 2	自己覚知を行うことで自己理解を振り返る。要介護者とその家族の背景を理解し、チームの連携や地域包括ケアシステムを学ぶ。	
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護の意義を学ぶ。	DP2、 4	社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険制度、障害者自立支援法等を中心に、職業倫理や社会福祉制度が理解できている。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（学習成果と評価について） 介護福祉における自立支援の意義－1「ICFの考え方と自立支援」		ICFの基本を予習（1時間）	介護実習での担当利用者をICFの視点で再構築する（1時間）
2.	介護福祉における自立支援の意義－2「要介護者理解の視点（エンパワメント、ストレングス）」		介護実習での担当利用者について振り返る（1時間）	個別的なICFのあり方について復習する（1時間）
3.	介護福祉における自立支援の意義－3「自己決定支援」		介護実習での担当利用者自己決定について予習（1時間）	自己決定支援の方法について復習する（1時間）
4.	生活意欲と活動「レクリエーションとアクティビティの理解」		アクティビティについて予習（1時間）	生活意欲が持てる介護について復習する（1時間）
5.	介護予防の意義とリハビリテーションの理念		「介護の基本」テキスト介護予防を予習（1時間）	介護予防の具体的支援方法をまとめる（1時間）
6.	リハビリテーションと介護福祉－1「ADLとIADIの理解、日常生活としてのリハビリテーション」		「介護の基本」テキスト日常生活とリハビリテーションを予習（1時間）	IADLを理解できるようにまとめる（1時間）
7.	リハビリテーションと介護福祉－2「介護予防の意義とリハビリテーションの理念」		「介護の基本」テキスト社会生活能力の維持・拡大を予習（1時間）	生活リハビリテーションをまとめる（1時間）
8.	就労支援「就労支援と介護福祉」		「介護の基本」テキスト高齢者・障害者の就労について予習（1時間）	就労支援サービスをまとめる（1時間）
9.	自立支援と生活支援－1「家族、地域と個の関わり、自立と地域社会」		「介護の基本」テキスト在宅生活について予習（1時間）	在宅生活の必要性をまとめる（1時間）
10.	自立支援と生活支援－2「生活環境の整備」		「介護の基本」テキスト自宅周辺の環境について予習（1時間）	高齢者や障害者が地域で生活する方法をまとめる（1時間）
11.	自立支援と生活支援－3「バリアフリーとユニバーサルデザイン」		「介護の基本」テキスト社会福祉制度からの生活支援について予習（1時間）	ユニバーサルデザインについてまとめる（1時間）
12.	自立支援と生活支援－4「福祉のまちづくりの意義」		「介護の基本」テキスト福祉の町作りについて予習（1時間）	地域包括ケアシステムの関連事業をまとめる（1時間）
13.	生活の個性と多様性－1「生活の個性と多様性の理解」		「介護の基本」テキスト生活の個性について予習（1時間）	様々な環境の中での生活のあり方をまとめる（1時間）
14.	生活の個性と多様性－2「生活の個性と多様性の理解」		「介護の基本」テキスト障害や疾病のある人の生活について予習（1時間）	障害や疾病のある人々の生活支援をまとめる（1時間）
15.	生活の個性と多様性－3「生活の個性と多様性の理解」		「介護の基本」テキスト生活の個性と多様性について予習（1時間）	個人を尊重しながら地域で生活することの意義をまとめる（1時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護の基本」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（80%）、レポート作成及び発表（15%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	介護福祉分野だけでなく、社会福祉や地域福祉等を学ぶ			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16：30～17：30）にお出でください			

科目	介護の基本（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	講義+演習 3単位
授業概要	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から取れるための学習。介護における安全やチームケアについて理解する。介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みの理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。</p> <p>業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護・通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。</p>			*この授
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。	DP2、 3	介護福祉士として必要なコミュニケーション能力・観察力等のアセスメント能力を身につけ、介護福祉の専門性と倫理を理解できている。	
2.	要介護者の尊厳と自立(自律)支援するための介護の基本的な知識や技術を習得する。	DP1、 2	自己覚知を行うことで自己理解を振り返る。要介護者とその家族の背景を理解し、チームの連携や地域包括ケアシステムを学ぶ。	
3.	介護福祉・社会福祉の観点から、福祉制度や人権擁護の意義を学ぶ。	DP2、 4	社会福祉士及び介護福祉士法、介護保険制度、障害者自立支援法等を中心に、職業倫理や社会福祉制度が理解できている。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	介護を必要とする人の理解－1 「生活の個性と多様性」	「生	「介護の基本」テキストその人らしさについて予習（1時間）	前回学んだ内容を含め生活の個性と多様性をまとめる（1時間）
17.	介護を必要とする人の理解－2 「高齢者の生活」	「高	介護が必要な障害者（児）高齢者の理解を予習（1時間）	高齢者の生活の場をまとめる（1時間）
18.	介護を必要とする人の理解－3 「障害者（児）の生活」	「障	「介護の基本」テキスト障害者（児）の生活の理解について予習（1時間）	障害者（児）の生活の場をまとめる（1時間）
19.	介護を必要とする人の理解－4 「家族介護者の理解と支援」	「家	「介護の基本」テキスト生活環境の重要性について予習（1時間）	家族介護の現状をまとめる（1時間）
20.	介護を必要とする人の生活を支える仕組み－1 「介護を必要とする人が暮らす地域の理解と連携の意義」		「介護の基本」テキスト介護が必要な人々の地域の理解について予習（1時間）	地域包括ケアシステムについてまとめる（1時間）
21.	介護を必要とする人の生活を支える仕組み－2 「介護を必要とする人へのフォーマルな支援」	「介護を	「介護の基本」テキスト介護が必要な人の理解を予習（1時間）	フォーマルな支援についてまとめる（1時間）
22.	介護を必要とする人の生活を支える仕組み－3 「介護を必要とする人へのインフォーマルな支援」	「介護を	「介護の基本」テキスト介護を必要とする人の理解を予習（1時間）	介護福祉のフォーマル・インフォーマルを復習する（1時間）
23.	多職種との連携－1 「多職種の役割と専門性の役割」		「介護の基本」テキスト多職種連携を予習（1時間）	多職種についてまとめる（1時間）
24.	多職種との連携－2 「多職種連携の意義と課題」		「介護の基本」テキスト多職種と介護の連携について予習（1時間）	介護と多職種連携の意義についてまとめる（1時間）
25.	介護における安全の確保とリスクマネジメント 1 「介護における安全の確保」	「介護の	「介護の基本」テキスト介護における安全の確保を予習（1時間）	介護上の安全の確保についてまとめる（1時間）
26.	介護における安全の確保とリスクマネジメント 2 「事故防止、安全対策」	「事故防	「介護の基本」テキスト安全確保のリスクマネジメントの予防を予習（1時間）	介護事故をまとめる（1時間）
27.	介護における安全の確保とリスクマネジメント 3 「感染対策」	「感染対	「介護の基本」テキスト介護に携わる人の健康管理を予習（1時間）	労働基準法と労働安全基準法をまとめる（1時間）
28.	介護従事者の安全－1 「労働基準法と労働安全基準法」		「介護の基本」テキスト介護に携わる人の健康管理を予習（1時間）	介護従事者の安全を守る方法をまとめる（1時間）
29.	介護従事者の安全－2 「労働安全と環境整備、労働者災害」		「介護の基本」テキストテキストを読み返す（1時間）	介護の基本で学んだ内容をまとめる（1時間）
30.	介護従事者の安全－3 「介護従事者の心身の健康管理」		介護従事者の心身のリスクを調べる（1時間）	介護の基本で学んだ内容を振り返る（1時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護の基本」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（80%）、レポート作成及び発表（15%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	介護福祉分野だけでなく、社会福祉や地域福祉等を学ぶ			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16：30～17：30）にお出でください			

科 目	介護の基本 (生活の理解)		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 大川 絹代		授業形態 単位数	講義+演習 1単位
授業概要	自立支援の観点から、基本的な介護の知識・技術を養う。多職種協働やケアマネジメント、制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる力をつけ、リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践について学ぶ。さらに、尊厳の確保、自立支援について理解し、介護における安全やチームケア等について理解する。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護の概念や定義、時代背景から考える介護問題を理解し、尊厳を支える介護福祉の観点を理解できる。	DP1	定期試験及びレポートで6割以上解答できる。	
2.	介護を必要とする人が望む生活を送るため、自立の概念、権利擁護について考えることができる。	DP1	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
3.	介護福祉士に求められる役割、価値、機能を理解し、介護現場や地域で実践されている介護福祉を理解できる。	DP1	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
	授業計画 (授業内容)		授業時間外学習	
			予習 (必要時間)	復習 (必要時間)
1.	学習成果について (評価方法、評価基準) 介護福祉を必要とする人の理解		教科書1章熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
2.	生活を支えるフォーマルサービス (社会的サービス)		教科書2章1熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
3.	生活を支えるインフォーマルサービス (私的サービス)		教科書2章2熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
4.	地域連携		教科書2章3熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
5.	介護における安全の確保		教科書3章1熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
6.	リスクマネジメント		教科書3章2熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
7.	感染症対策		教科書3章3熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
8.	多職種連携・協働の機能		教科書4章1熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
9.	多職種連携・協働の専門職について		教科書4章2熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
10.	保健・医療・福祉職の役割と機能		教科書4章3熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
11.	多職種連携・協働の実際		教科書4章4熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
12.	健康管理の意義と目的		教科書5章1熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
13.	こころの健康管理		教科書5章2熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
14.	身体の健康管理		教科書5章3熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
15.	労働環境の整備		教科書5章4熟読 (1時間)	講義内容、配布資料のまとめ (1時間)
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会「最新・介護福祉士養成講座4 介護の基本」中央法規出版			
参考書	適宜配布			
学習成果の評価方法	試験70%、レポート20%、授業への参加度10%。レポートはフィードバック後返却します。			
特記すべき事項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。			
質問・相談等の受付	質問などがある場合にはオフィスアワー (火曜13時~14時30分) に研究室へ来てください。			

科目	介護の基本 (住・インファント)		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 鵜殿 久美・講師 水上 尚子		授業形態 単位数	講義+演習 2単位
授業概要	<p>・住宅改修に関する制度と疾病、住宅改修の基本的知識を習得する。福祉住環境コーディネーター受験のための勉強をとおして、高齢者・障害者の住宅政策、介護保険政策障害者自立支援法、高齢者・障害者の疾病と住環境上の対応、住宅改修の基本的知識を学習する。</p> <p>・インファントセラピーとしてワークショップ開催できるように、ネック&amp;ショルダー(ファミリーバージョン)・腰のケア・インファントセラピーの相モデルを入れて実施できるようになる。</p>			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	住宅改修に関する制度と疾病、住宅改修の基本的知識を習得できる。	DP1	住宅改修に関する基本的知識を理解することができ、ミニテストにおいて6割以上回答できる。	
2.	福祉住環境コーディネーター2級の全員合格をめざす。	DP1	福祉住環境コーディネーター2級レベルの実力を身につける	
3.	インファントセラピストとして現場でいかすことができる。	DP1	筆記・実技認定試験に合格できる。 学外実習にて実践できる。	
	授業計画(授業内容)		授業時間外学習	
			予習(必要時間)	復習(必要時間)
1.	学習成果について(評価方法、評価基準)福祉における「すまい」の位置づけ 高齢社会への基礎知識。授業の目的、課題の設定(担当:鵜殿)		教科書の基礎知識について目を通しておく(2時間)	講義で学んだ内容を復習しておく(2時間)
2.	住宅改修基礎知識(1)(担当:鵜殿)		教科書の基礎知識について目を通しておく(2時間)	講義で学んだ内容を復習しておく(2時間)
3.	住宅改修基礎知識(2)(担当:鵜殿)		教科書の基礎知識について目を通しておく(2時間)	講義で学んだ内容を復習しておく(2時間)
4.	住宅改修基礎知識(3)(担当:鵜殿)		教科書の基礎知識について目を通しておく(2時間)	講義で学んだ内容を復習しておく(2時間)
5.	高齢者・障害者の状況と福祉施策・介護保険(担当:鵜殿)		福祉施設・介護保険について調べておく(2時間)	講義で学んだ内容を復習しておく(2時間)
6.	高齢者の住宅施策・障害者の住宅施策(担当:鵜殿)		福祉施設・介護保険について調べておく(2時間)	講義で学んだ内容を復習しておく(2時間)
7.	住宅改修基礎知識・改造の現場の実体験(DTR他)(担当:鵜殿)		住宅改修について調べておく(2時間)	講義で学んだ内容を復習しておく(2時間)
8.	福祉住環境コーディネーター2級 過去3年分の試験から出題 + 解説(担当:鵜殿)		試験問題の傾向と対策について探求しておく(2時間)	試験の出題傾向を復習しておく(2時間)
9.	福祉住環境コーディネーター2級 過去3年分の試験から出題 + 解説(担当:鵜殿)		試験問題の傾向と対策について探求しておく(2時間)	試験の出題傾向を復習しておく(2時間)
10.	福祉住環境コーディネーター2級 過去3年分の試験から出題 + 解説(担当:鵜殿)		試験問題の傾向と対策について探求しておく(2時間)	試験の出題傾向を復習しておく(2時間)
11.	学習成果について(評価方法、評価基準)インファントセラピー概論、実技:インファントセラピー(担当:水上)		テキストの講義内容を読んでおく(2時間)	学んだ知識・技術を反復伝習する(2時間)
12.	子どもの人権と母子保護 実技:インファントセラピー、ネック&ショルダーケア(担当:水上)		テキストの講義内容を読んでおく(2時間)	学んだ知識・技術を反復伝習する(2時間)
13.	呼吸法、日本古来のベビーマッサージ、学外実習について 実技:インファントセラピー、腰のケア(担当:水上)		テキストの講義内容を読んでおく(2時間)	学んだ知識・技術を反復伝習する(2時間)
14.	実技認定テスト(担当:水上)		実技試験対策(2時間)	テスト内容を振り返る(2時間)
15.	学外実習(担当:水上)		実技試験対策(2時間)	実習振り返り(2時間)
教科書	「住環境コーディネーター検定試験2級 テキスト&問題集」成美堂出版 「インファントセラピスト<S>テキスト」			
参考書	「住環境コーディネーター検定試験2級 1問1答+要点整理」成美堂出版			
学習成果の評価方法	<住環境コーディネーター>筆記試験(60%)、授業態度(40%) <インファントセラピー>実技認定試験(40%)、筆記試験(30%)、学外実習(20%)、レポート(5%)、授業態度(5%)			
特記すべき事項	(鵜殿)高齢者から障がい者を取り巻く社会状況、住環境整備の進め方(疾患別・障害別)について十分理解しておく。(1~10回) (水上)施術実技にあたっては、爪や髪、服装に気を配ること。(11~15回)			
質問・相談等の受付	(鵜殿)授業中または、授業終了後に受付ます。 (水上)授業前後に非常勤講師室で受け付けます。			

科 目	コミュニケーション技術		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 折居 明日香		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>介護福祉士として、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。</p> <p>また、授業では介護実践に必要なコミュニケーションの知識や技術を学び、理解を深め適切に活用できるよう演習やグループワークを通して実践的な力を培う。</p> <p>この授業は、介護福祉士として実務経験（高齢者施設）のある教員が根拠に基づき講義・演習を行う。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護におけるコミュニケーションの基本的知識や技法を理解することができる。	DP1	定期試験およびレポートで6割以上解答できる。	
2.	支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につけることができる。	DP2,3	レポートや授業内の演習課題において、学んだ知識を活用しながらコミュニケーションを実践することができる。	
3.	実践的な課題から、コミュニケーションについての理解を深めることができる。	DP4	授業内の実践的演習やグループワークへの積極的な参加や工夫を通じた体験的理解をレポートとしてまとめることができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 授業の目標や学習成果について（評価方法と評価基準）		シラバス、テキストに目を通しておく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
2.	介護を必要とする人とのコミュニケーション（意義と目的）		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
3.	介護を必要とする人とのコミュニケーション（支援の対象と援助関係の特徴）		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
4.	コミュニケーションの基本的技術（傾聴）		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
5.	コミュニケーションの基本的技術（共感）		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
6.	コミュニケーションの基本的技術（受容）		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
7.	コミュニケーションの基本的技術（言語コミュニケーション・非言語的コミュニケーション）		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
8.	障害の特性に応じたコミュニケーション		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
9.	障害の特性に応じたコミュニケーション		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
10.	障害の特性に応じたコミュニケーション		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
11.	介護における家族とのコミュニケーション		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
12.	介護における家族とのコミュニケーション		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
13.	介護におけるチームのコミュニケーション		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
14.	介護におけるチームのコミュニケーション		テキストの講義予定範囲を読んでおく（30分）	授業内容と疑問点を整理し、ノートにまとめる（30分）
15.	本授業のまとめ		授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく（30分）	授業内容の整理と全体の復習（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「コミュニケーション技術」中央法規出版			
参考書	なし			
学習成果の評価方法	筆記試験（50%）、演習課題およびレポート（40%）、授業態度（10%） レポートはフィードバック後、返却します。			
特記すべき事項	毎回の出席は、授業開始の応答により確認します。 提出物の期限は厳守して下さい。			
質問・相談等の受付	質問、相談等があるときは、授業終了後の教室または授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。			

科 目	コミュニケーション技術		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 井邑 智哉		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>多様な人々がともに暮らす現代社会においては、他者との対話を通して、各種問題を解決していくことが求められる。この授業では、主体的・能動的に他者と関わるコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>自分の意思、情報、感情を利用者や職員に伝えるためには、口頭や文章でのコミュニケーション能力が求められる。コミュニケーション能力が、介護の中心的な役割を担っていることを理解し、応用実践できる能力を培うことがこの授業の目的である。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	言語的・非言語的コミュニケーションの理解と介護技術との関係について理解できる。	DP2,4	レポートで、言語的・非言語的コミュニケーションの理論と介護技術との関係について適切に記述することができる。	
2.	プレゼンやディスカッションなどの口頭発表の能力を獲得できる。	DP2,4	授業の発表で、自分の考えを適切に表現できる。	
3.	集団による問題解決の方法やリーダーシップ能力を発揮できる。	DP2,4	演習の中で、問題解決能力や人間関係能力を行使できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	コミュニケーション技術の授業概要、授業形態、学習成果（評価方法、評価基準）について		コミュニケーションに関する自分の関心を明確にしておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
2.	印象形成と社会的認知		印象形成の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
3.	コミュニケーションを妨げるもの：羞恥感情		羞恥感情の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
4.	コミュニケーションを妨げるもの：怒り		怒りに関する疑問をまとめておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
5.	コミュニケーションを妨げるもの：認知の歪み		自分の認知にどのような歪みがあるかを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
6.	よい聴き手になるために：傾聴		傾聴の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
7.	よい聴き手になるために：自我状態（エゴグラム）		自我（エゴ）とは何かを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
8.	よい聴き手になるために：防衛機制、劣等コンプレックス		防衛機制の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
9.	非言語的コミュニケーション		非言語的コミュニケーションにどのようなものがあるかを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
10.	よい話し手になるために：質問スキル、敬語		敬語の概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
11.	よい話し手になるために：実践練習（ネーム・トス）		ネーム・トスの概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
12.	よい話し手になるために：実践練習（トーク・フォークダンス）		トーク・フォークダンスの概要を調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
13.	よい話し手になるために：ネガティブな関係に巻き込まれないためのコツ		ネガティブな関係にはどのようなものがあるかを調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
14.	問題解決のためのコミュニケーション		問題を解決するための方法について調べておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
15.	ふりかえりとまとめ		これまでの演習で学んだ内容を整理しておく。（30分）	今回の演習で学んだ内容を復習し、生活の中で実践してみること（30分）
教科書	特にありません。適宜資料を配布します。			
参考書	相川 充・高井次郎「コミュニケーションと対人関係」誠信書房			
学習成果の評価方法	発表やグループ活動への参加度（30%）、レポート（60%）、受講態度（10%）による			
特記すべき事項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。			
質問・相談等の受付	質問、相談等は授業中あるいは授業終了時に受け付けます。			

科 目	生活支援技術（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術力を習得する。個別的な介護技術で、安全・安楽に介護できる技術や知識について習得する。 *この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。	DP1,2	ボディメカニクス、ADL(移動・移乗・排泄・食事・清潔(入浴)・衣服の着脱)等の必要な介護技術ができる。	
2.	要介護者がその人らしい自立した日常生活が出来るよう支援できる。	DP1,2	コミュニケーション能力(言葉遣い、声掛け、目線)客観的視点で傾聴、共感、受容を身につけている。	
3.	身体介護の基礎的技術と知識を身につけ個別的な応用ができる。	DP1,2	福祉用具の活用、住宅改修、住環境コーディネートが理解できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（授業内容と学習成果について） 生活支援技術を学ぶ意義		シラバス、テキストに目を通して おく（30分）	生活支援と日常生活（ADL）をまと める（30分）
2.	ボディメカニクスの基本原則の理解		ボディメカニクスとは何か予習す る（30分）	ボディメカニクスの基礎を復習す る（30分）
3.	コミュニケーション技術「対人コミュニケーション」		対人コミュニケーションとは何か を予習する（30分）	コミュニケーショ方法をまとめる （30分）
4.	コミュニケーション技術「認知症サポーター養成講座」		認知症について予習する（30分）	認知症サポーターの役割を復習す る（30分）
5.	ベッドメイキングー1「ベッドメイキングの意義と方法」		ベッドメイキングについて予習す る（30分）	ベッドメイキング方法についてポ イントをまとめる（30分）
6.	ベッド上での移動		ベッド上での移動方法を予習する （30分）	様々な移動方法の基本をまとめる （30分）
7.	ベッドメイキングー2「利用者が臥床時のベッドメイキング方法」		利用者が臥床時のベッドメイキン グ方法を予習する（30分）	体位変換の安全安楽な方法をまと める（30分）
8.	車いすの理解・ベッド（臥床）から車椅子への移乗		車いすの名称を予習する（30分）	車いすへの移乗方法の基本をまと める（30分）
9.	車いすからベッド（臥床）への移乗		車いすへの移乗方法を予習する（3 0分）	車いすへの移乗方法のポイントを まとめる（30分）
10.	衣服の着脱ー1「臥床時の和式寝巻きの着脱」		身体障害のない人の衣服の着脱方 法を予習する（30分）	臥床時の衣服の着脱の基礎をまと める（30分）
11.	衣服への理解・衣服の着脱ー1「臥床 和式寝巻きの着脱」		身体障害のない人の衣服の着脱方 法を予習する（30分）	臥床時の衣服の着脱のポイントを まとめる（30分）
12.	衣服の着脱ー2「臥床・座位 パジャマの着脱」		身体障害のない人のパジャマの上 下の着脱方法を予習する（30分）	臥床時・座位時の着脱方法をまと める（30分）
13.	衣服の着脱ー2「臥床・座位 パジャマの着脱」		身体障害のある人のパジャマの上 下の着脱方法を予習する（30分）	臥床時・座位時の安全安楽な方法 をまとめる（30分）
14.	移動移乗の意義と介護法		バリアフリーについて予習する（3 0分）	段差や屋外での走行時の注意点を まとめる（30分）
15.	車椅子の移動移乗		ボディメカニクスを再読する（30 分）	段差や屋外での走行時のポイント をまとめる（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「生活支援技術・・・」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の 評価方法	筆記試験（50%）、実技演習（40%）、レポート作成（5%）、授業態度（5%）、レポートはフィードバック後返却します。			
特記すべき 事項	身体介護技術のポイントを理解した上で、介護技術の演習に臨む。 演習時は動きやすい服装や靴、髪をまとめるように心掛ける			
質問・相談等 の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16：30～17：30）にお出でください			

科 目	生活支援技術（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援の生活が継続出来るよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。          介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術力を習得する。個別的な介護技術で、安全・安楽に介護できる技術や知識について習得する。          *この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護、通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護実践における安全を管理するための 基礎的な知識・技術を習得する。	DP1,2	ボディメカニクス、ADL(移動・移乗・排泄・食事・清潔(入浴)・衣服の着脱)等の必要な介護技術ができる。	
2.	要介護者がその人らしい自立した日常生活が出来るよう支援できる。	DP1,2	コミュニケーション能力(言葉遣い、声掛け、目線)客観的視点で傾聴、共感、受容を身につけている。	
3.	身体介護の基礎的技術と知識を身につけ個別的な応用ができる。	DP1,2	福祉用具の活用、住宅改修、住環境コーディネートが理解できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	排泄の介護－1 排泄のメカニズム「排尿と排便について」		排泄についての予習をする（30分）	排泄の正常・異常をまとめる（30分）
17.	排泄の介護－2 「ポータブルトイレ」		ポータブルトイレの名称を予習する（30分）	ポータブルトイレの介護方法と清潔不潔についてまとめる（30分）
18.	排泄の介護－3「おむつ交換」		臥床時のおむつ交換方法を予習する（30分）	おむつ交換方法を復習する（30分）
19.	介護実習に必要な介護の知識と技術		これまで学んだ介護技術を振り返る（30分）	介護技術の弱点を復習する（30分）
20.	介護実習に必要な介護技術の実践例		これまで学んだ介護技術を振り返る（30分）	介護技術の弱点を復習する（30分）
21.	実習直前介護技術評価		介護技術の基礎を予習する（30分）	介護技術の基礎から応用への展開を振り返る（30分）
22.	介護実習を終えて - 1 介護技術の応用例検討		介護が必要な利用者について予習する（30分）	応用例をまとめる（30分）
23.	介護実習を終えて - 2 介護技術の応用例発表		自身の実習体験を振り返りまとめる（30分）	他学生の発表を理解する（30分）
24.	食事の介護－1「食事の意義とメカニズム」		食事の意義とメカニズムについて予習する（30分）	食事の必要性をまとめる（30分）
25.	食事の介護－2「食事食体験・食事介助」		食事の介護について予習する（30分）	食事の介護のポイントをまとめる（30分）
26.	食事の介護－3「口腔ケア」		口腔ケアについて予習する（30分）	口腔ケアの方法についてまとめる（30分）
27.	清潔－1「清潔の意義と効果」		清潔について予習する（30分）	入浴体験や介護方法をまとめる（30分）
28.	清潔－2「入浴の介護」		入浴の意義について予習する（30分）	入浴の体験におけるポイントをまとめる（30分）
29.	清潔－3「洗髪の介護」		洗髪の意義や方法について予習する（30分）	清潔の介護についてまとめる（30分）
30.	介護技術実技評価		介護技術の基礎から応用方法を予習する（30分）	事例に応じた介護方法を振り返る（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「生活支援技術・・・」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（50%）、実技演習（40%）、レポート作成（5%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	身体介護技術のポイントを理解した上で、介護技術の演習に臨む。 演習時は動きやすい服装や靴、髪をまとめるように心掛ける			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日 16：30～17：30）にお出でください			

科目	生活支援技術（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援から根拠に基づいた介護実践を行う知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>介護実践における安全を管理のため、基礎的な知識・技術力を習得する。 要介護者の状況に応じた安全・安楽に介護できる技術・知識を習得する。 *この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護・通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。	DP 1、2	ボディメカニクス、ADL(移動・移乗・排泄・食事・清潔(入浴)・衣服の着脱)等の必要な介護技術ができる	
2.	要介護者がその人らしい自立した日常生活が出来るよう支援できる。	DP 1、2	コミュニケーション能力(言葉遣い、声掛け、目線)客観的視点で傾聴、共感、受容を身につけている	
3.	身体介護の基礎的技術と知識を身につけ個別的な応用ができる。	DP 1、2	福祉用具の活用、住宅改修、住環境コーディネートが理解できる	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション：授業内容と学習成果（評価基準・評価方法）について 介護実習－2を終えて介護技術体験事例検討		介護実習 での実践内容まとめる（30分）	介護技術の体験事例の再構築する（30分）
2.	介護実習－2を終えて介護技術体験事例検討		介護実習 での実践内容まとめる（30分）	介護技術の体験事例の再構築する（30分）
3.	福祉用具の活用法 - 1「移動・移乗」		移動・移乗の福祉用具について予習する（30分）	福祉用具を活用した介護方法をまとめる（30分）
4.	福祉用具の活用法 - 1「移動・移乗」		移動・移乗の福祉用具について予習する（30分）	福祉用具を活用した介護方法をまとめる（30分）
5.	福祉用具の活用法 - 2「移動・移乗」		移動・移乗の介護技術のポイントについて予習する（30分）	福祉用具の種類とポイントをまとめる（30分）
6.	福祉用具の活用法 - 2「移動・移乗」		移動・移乗の介護技術のポイントについて予習する（30分）	福祉用具の種類とポイントをまとめる（30分）
7.	視覚障害者の介護		視覚障害者の介護について予習する（30分）	視覚障害者の疾病について復習する（30分）
8.	視覚障害者の介護		ガイドヘルパーについて予習する（30分）	視覚障害者への介護方法をまとめる（30分）
9.	住環境をコーディネートする 1「学内編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		車いすや視覚障害者の介護について予習する（30分）	障害者への学内のバリアフリーについてまとめる（30分）
10.	住環境をコーディネートする 1「学内編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		車いすや視覚障害者の介護について予習する（30分）	障害者への学内のバリアフリーについてまとめる（30分）
11.	住環境をコーディネートする 1「学内編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		前回の体験内容を振り返る（30分）	グループワークや発表についての気づきをまとめる（30分）
12.	住環境をコーディネートする 1「学内編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		前回の体験内容を振り返る（30分）	グループワークや発表についての気づきをまとめる（30分）
13.	住環境をコーディネートする 1「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		グループ毎の発表時の質疑応答を準備する（30分）	学内の住環境について再構築する（30分）
14.	住環境をコーディネートする 1「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		グループ毎の発表時の質疑応答を準備する（30分）	学内の住環境について再構築する（30分）
15.	住環境をコーディネートする 2「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		地域で生活する障害者を理解する（30分）	地域での体験内容を復習する（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「生活支援技術 ・・・」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（50%）、実技演習（40%）、レポート作成（5%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	身体介護技術のポイントを理解した上で、介護技術の演習に臨む。 演習時は動きやすい服装や靴、髪をまとめるように心掛ける。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日 16：30～17：30）にお出でください。			

科 目	生活支援技術（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	<p>尊厳の保持や自立支援から根拠に基づいた介護実践を行う知識・技術を習得する学習とする。</p> <p>介護実践における安全を管理のため、基礎的な知識・技術力を習得する。</p> <p>*この授業は、介護福祉士として在宅介護（訪問介護・通所介護）に携わった経験を持つ講師が行う。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護実践における安全を管理するための 基礎的な知識・技術を習得する。	DP 1、2	ボディメカニクス、ADL(移動・移乗・排泄・食事・清潔(入浴)・衣服の着脱)等の必要な介護技術ができる	
2.	要介護者がその人らしい自立した日常生活が出来るよう支援できる。	DP 1、2	コミュニケーション能力(言葉遣い、声掛け、目線)客観的視点で傾聴、共感、受容を身につけている	
3.	身体介護の基礎的技術と知識を身につけ個別的な応用ができる。	DP 1、2	福祉用具の活用、住宅改修、住環境コーディネートが理解できる	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	住環境をコーディネートする 2「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）		障害者が介護者と屋外に出るポイントを予習する（30分）	地域で体験した内容を明確にする（30分）
17.	住環境をコーディネートする 2「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）、グループワーク		前回の体験内容をまとめる（30分）	グループワークの内容を再構築する（30分）
18.	住環境をコーディネートする 2「地域編」バリアフリーのある暮らし（車椅子、視覚障害）、発表		前回の体験内容をまとめる（30分）	グループワークの内容を再構築する（30分）
19.	ターミナルケアとグリーフケア 「利用者への対応」		ターミナルケアについて予習する（30分）	ターミナルケアのあり方をまとめる（30分）
20.	ターミナルケアとグリーフケア 「その家族への対応」		グリーフケアについて予習する（30分）	グリーフケアのポイントをまとめる（30分）
21.	薬物管理 - 1 「薬物管理方法」		薬物管理方法について予習する（30分）	薬物管理方法についてまとめる（30分）
22.	薬物管理 - 2 「疾病と薬物利用について」		疾病と薬物の関連について予習する（30分）	疾病と薬物についてまとめる（30分）
23.	災害時の介護 - 1 「様々な災害時の対応方法の理解」		災害時の介護について予習する（30分）	在宅・施設での様々な災害時の介護をまとめる（30分）
24.	災害時の介護 - 2 「在宅介護の対応」		災害時の介護について予習する（30分）	在宅での災害時の介護をまとめる（30分）
25.	災害時の介護 - 3 「介護施設での介護」		災害時の介護について予習する（30分）	施設での災害時の介護をまとめる（30分）
26.	災害時の介護 - 4 「避難所での介護」		避難場所の必要な介護をまとめる（30分）	避難所での災害時の介護をまとめる（30分）
27.	介護技術まとめ - 1		これまで学んだ介護技術をまとめる（30分）	不得意な介護技術を復習する（30分）
28.	介護技術まとめ - 2		介護技術全般のポイントを予習する（30分）	これまで学んだ介護技術を振り返る（30分）
29.	介護技術実技評価		生活支援技術の基本と応用を予習する（30分）	事例の利用者へのより良い介護を理解する（30分）
30.	生活支援技術の総まとめ		生活支援技術の基本と応用を予習する（30分）	生活支援技術の学習のまとめ（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「生活支援技術・・・」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（50%）、実技演習（40%）、レポート作成（5%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	身体介護技術のポイントを理解した上で、介護技術の演習に臨む。演習時は動きやすい服装や靴、髪をまとめるように心掛ける。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日 16：30～17：30）にお出でください。			

科目	生活支援技術（手話）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 谷口 斉子		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>聴覚障害のある人の生活上の困難を理解し、適切に介護するためには困難の原因となっている聴覚障害や言語障害を理解する必要がある。その上で、個別的な困難・不便などの課題や対応方法を学び、聴覚障害者とのコミュニケーション手段や手話による会話の実践を行う。日常で使用する挨拶や自己紹介が笑顔で楽しくできることを目的としている。</p> <p>聴覚障害のある人への生活支援技術として、手話によるコミュニケーション技術を習得する。簡単な手話表現を理解し、手話や表情によりお互いの思いを伝え合う。また、相手を理解するために自ら手話表現を活用し、多様な場面での会話の実践を行う。手話による会話の楽しさや表現力の豊かさを学ぶ。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	聴覚障害者の日常生活での困難・不便などの課題や対応方法を理解できる。	DP1.3	日常生活での課題を理解し、その対応方法を身につける。	
2.	簡単な手話表現を理解し、自ら手話表現ができる。	DP1	毎時間、積極的に授業に取り組み、手話で自己紹介ができるようになる。	
3.	聴覚障害者とコミュニケーションをとることができる。	DP1.4	期末試験ならびに毎時の課題で6割以上解答できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 聴覚障害者の生活、コミュニケーションについて		シラバス、テキストに目を通して おく（30分）	学んだ内容をまとめる（30分）
2.	第1・2講座 伝え合ってみましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
3.	第3講座 自己紹介をしましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
4.	第4講座 家族を紹介しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
5.	第5講座 数を使って話しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
6.	第6講座 趣味について話しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
7.	第7講座 仕事について話しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
8.	第8講座 住所を紹介しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
9.	第9講座 まとめ		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
10.	第10講座 1日のことを話しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
11.	第11講座 1ヶ月のことを話しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
12.	第12講座 1年のことを話しましょう		DVDとテキストにある手話単語を見 ておく（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
13.	ろうあ者と体験交流をしましょう		予告した内容を手話で表現できる よう練習する（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
14.	話してみましょう		予告した内容を手話で表現できる よう練習する（30分）	学んだ手話の反復練習をする（30 分）
15.	まとめとテスト		予告した内容を手話で表現できる よう練習する（30分）	講義全体をまとめ、定期試験に備 える（30分）
教科書	「手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう」（財）全日本ろうあ連盟出版局			
参考書	なし			
学習成果の 評価方法	試験（80％）、受講態度（20％）			
特記すべき 事項	遅刻、早退、その他やむを得ず退室、入室する際は必ず申し出ること。			
質問・相談等 の受付	相談、質問がある時は、授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。			

科 目	生活支援技術（セラ）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 水上 尚子		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	福祉の現状を踏まえ、今後必要な生活支援技術のひとつとして、セラピューティック・ケアを習得し、介護のみならずQOLの向上を目指した支援にも役立たせることができるよう、その汎用性まで包括して学習する。セラピューティック・ケアの沿革と基本理念に習熟し、セラピストとしてセラピューティック・ケアの施術ができる。また、セラピストとして接遇、傾聴等の知識があり対応できる。また、様々な福祉分野や現場において、セラピューティック・ケアを生活支援技術として活かす基礎を構築する。セラピューティック・ケア介護セラピストの資格取得をめざす。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	セラピューティック・ケアの基本技術とセラピストとしての基礎を習得している。	DP3	セラピューティック・ケアの基本技術およびセラピストとして傾聴・接遇等の周辺知識修得し、クライアントの個別対応ができる。	
2.	セラピューティック・ケアの知識と施術方法ができる。	DP1	筆記と実技試験にて評価する。	
3.	セラピューティック・ケアの知識と技術を介護の現場でいかすことができる。	DP4	学外実習でクライアントに対して適切に個別対応ができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション(評価方法、評価基準について)、DVD視聴(Pv.ロクイチ)理論：概論 実技：ネック&ショルダーケア(ビギナー)		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
2.	理論：DVD基本編視聴 実技：ネック&ショルダーケア(フルバージョン)		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
3.	理論：統合医療としてのセラピューティック・ケア 実技：ハンド&アームケア、ネック&ショルダーケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
4.	理論：感染対策と施術上のテクニック、ハンド&アームケア 実技：ハンド&アームケア、ネック&ショルダーケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
5.	理論：手あての効果、ネック&ショルダーケア 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
6.	理論：相乗効果、レッグケア 実技：レッグケア、ネック&ショルダーケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
7.	理論：科学的根拠に基づいた立証実験 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
8.	理論：ユニバーサルデザインとしてのセラ、傾聴と接遇 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
9.	理論：セラピューティックケア事例ごとの対応(実習室) 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
10.	理論：こころとからだを癒す認知症ケア、ターミナル期の方へのケア 実技：ポイントレッスン		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
11.	実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
12.	理論：ケア活動の心得、学外実習について 実技：ネック&ショルダーケア、ハンド&アームケア、レッグケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	学んだ知識・技術の反復練習しておく(30分)
13.	実技認定テスト、まとめ		テスト準備(30分)	テスト振り返り(30分)
14.	学外実習		学外実習準備(30分)	学外実習振り返り(30分)
15.	理論：セラピューティックケアでコミュニケーション、ツボ、協会の案内、認定証について 実技：腰のケア		テキストの講義予定範囲を読んでおく(30分)	授業全体を振り返る(30分)
教科書	「介護セラピストテキスト」日本セラピューティック・ケア協会認定テキスト			
参考書	なし			
学習成果の評価方法	実技認定テスト(40%)、筆記試験(30%)、学外実習(20%)、レポート(5%)、授業態度(5%)			
特記すべき事項	施術実技にあたっては、爪や髪(長い人は束ねる)、身だしなみに気を配ること。			
質問・相談等の受付	相談がある時は、授業の前後に非常勤講師室へ来て下さい。			

科 目	生活支援技術		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 重松 佳代		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	高齢者、障がい者の健康を維持する食生活の基本栄養、食品、調理に関して正しい知識と技術を実習を通じて習得する。基本の調理を習得後、日常食（和、洋、中華）の嚙下、咀嚼く困難への対応、治療食の展開実習を行う。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	衛生面に気を配り、安全に実習を行える。	DP2,3	時間配分を考えて実習を進め、準備から後片付けまでを衛生的に行える。	
2.	グループで協力して実習を進められる。	DP3	実習の見通しをもって自分の仕事を把握し、グループで協働できる。	
3.	介護職の調理技術を習得する。	DP1	要介護者に喜ばれる献立を立案し、適切な調理方法で介護食を調理できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション、 学習成果について（評価方法、評価基準について）		シラバスを読んでおく（30分）	オリエンテーション内容を再確認しておく。（30分）
2.	和食の実習（基本）		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
3.	洋食の実習（基本）		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
4.	中華の実習（基本）		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
5.	日常料理（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
6.	日常料理（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
7.	日常料理（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
8.	日本料理（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
9.	西洋料理（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
10.	中国料理（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
11.	介護食の献立展開 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
12.	治療食（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
13.	治療食（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
14.	治療食（介護食） 実習		予定された実習の手順等について確認しておく。（30分）	実習をとおして気づいた点、反省等をまとめる。（30分）
15.	嚙下、障がい食（製品の試飲、試食）のまとめ		これまでの授業内容、疑問点等をまとめておく（30分）	授業全体の振り返り（30分）
教科書	プリント配布			
参考書	なし			
学習成果の評価方法	実習態度（50%）、授業内で行うレポート・実技等（50%）			
特記すべき事項	グループ学習（演習）となるため、お互いに十分に協力し合い、学びを深めること。			
質問・相談等の受付	質問等がある時は、授業の前後に行うこと。			

科目	生活支援技術（福祉レク）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 大久保 優美子		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	レクリエーションは福祉支援を受ける対象者にとって、元気を回復し生きがいや張り合いのある生活を生み出すことを理解する。多様なレクリエーションを学ぶとともに、対象者の気持ちを受け止め、寄り添いながら対象者に合わせたレクリエーション支援ができる技術を取得する。多様なレクリエーションを体験し、様々な情報を得ることによってレクリエーションの本質的な楽しさを理解する。また、演習やグループワークを通じて、対象者に合わせたアレンジ技術や目的に合わせた展開方法を学ぶ。発表の体験により集団をリードし、一体感を生み出し楽しい時間を演出する支援技術を取得する。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	福祉レクリエーションの基本的考え方、基礎知識を習得することができる。	DP1	定期試験および授業中のミニテストにより学習成果の評価を行う。福祉レクリエーションに関する基礎知識について7割以上解答できる。	
2.	対象者に合わせたレクリエーションの支援技術を取得する。	DP2	対象者に応じて適切な内容を計画し実施できる。	
3.	良好なコミュニケーションを取るための技術を取得する。	DP3	グループワークおよび発表により学習成果の評価を行う。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション 学習成果について評価方法 福祉レクリエーションを学ぶにあたって		教科書の「福祉レクリエーションサービスを学ばれる皆様へ、はじめに」を読む	授業で学んだことを復習する
2.	レクリエーションの基本的理解 レクリエーション実技（アイスブレイキング）		6P～7Pを読む（30分）	recreationの語源を調べる（30分）
3.	福祉レクリエーションとは レクリエーション実技（アイスブレイキング）		8P～11Pを読む（30分）	体験したことがあるレクリエーションを書きだす（30分）
4.	福祉レクリエーション支援の理解 レクリエーション実技（アイスブレイキング）		14P～25Pを読む（30分）	QOLとは何かを調べる（30分）
5.	福祉レクリエーション支援理解 レクリエーション実技（コミュニケーション技法）		26P～31Pを読む（30分）	ジョハリの窓を理解する（30分）
6.	福祉レクリエーション支援の理解 レクリエーション実技（コミュニケーション技法）		32P～37Pを読む（30分）	福祉レクリエーション支援を理解する（30分）
7.	楽しさ追求の支援の根拠1（APIEプロセス）ス レクリエーション実技（コミュニケーション技法）		40P～45Pを読む（30分）	APIEプロセスを理解する（30分）
8.	楽しさ追求の支援の根拠（総合的な支援の流れ） レクリエーション実技（お手玉）		46P～55Pを読む（30分）	46P～55Pを再読する（30分）
9.	楽しさ追求の支援の根拠（行動変容と自己効感）感 レクリエーション実技（リズム体操）		56P～61Pを読む（30分）	健康信念モデルについて調べる（30分）
10.	レクリエーション活動の実践（季節を楽しむクラフト）		必要な道具を準備する（ハサミ、ポンド、のりなど）	アレンジを考える（30分）
11.	レクリエーション活動の実践（季節を楽しむクラフト）		必要な道具を準備する（ハサミ、ポンド、のりなど）	アレンジを考える（30分）
12.	福祉レクリエーション支援（高齢者の事例）例 レクリエーション活動実技（高齢者対象）		64P～71Pを読む（30分）	64P～71P再読する（30分）
13.	福祉レクリエーション支援（障がい児・障がい者の事例） レクリエーション活動実技（障がい児・障がい者対象）		72P～75Pを読む（30分）	72P～75P再読する（30分）
14.	福祉レクリエーション支援（子育て支援の事例） レクリエーション活動実技（子ども対象）		76P～79Pを読む（30分）	76P～79P再読する（30分）
15.	まとめとテスト		テストに備える（30分）	授業を振り返る（30分）
教科書	「楽しさの追求を支える理論と支援の方法」（公益財団法人）日本レクリエーション協会			
参考書	適宜紹介します			
学習成果の評価方法	期末試験（60％）、課題に対する提出物（20％）、授業への参加度（取組・発表）20％ 課題レポートについては、評価・フィードバックをした上で返却します。			
特記すべき事項	毎回の出席は事業開始時における応答、レポート提出により確認します。遅刻、早退、欠席は本人が直接理由を申し出ること。			
質問・相談等の受付	質問、相談等があるときは授業終了後の教室またはj授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。			

科 目	生活支援技術（家政）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 河村 節子		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	社会生活を維持するための日常生活の基礎知識を習得し、高齢者と障がい者の日常生活活動を把握し、適切に対応できる生活支援技術を養う。 介護福祉士に必要な日常生活の基礎知識を学び、実験、レポート等を通して高齢者と障がい者の生活支援技術を養う。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	生活支援技術の意義、目的が十分に理解できる。	DP1,2	授業中の質問、ワークシートで生活支援技術について回答できる。	
2.	高齢者と障がい者の生活支援技術ができる。	DP1,2	日常生活の基礎知識を習得し、実験等を通して生活に応用することができる。	
3.	文章で適切な報告ができる。	DP3	丁寧で理解しやすい文章で作成されている。図も適切に工夫して描かれている。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法および評価基準）・食生活（栄養）		栄養とは何かについて調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
2.	食生活（食品）		食品について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
3.	食生活（栄養・調理実験）		栄養素について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
4.	食生活（食品の衛生と安全）		食品衛生について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
5.	食生活（食品の衛生と安全・食品衛生実験）		食品の安全性について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
6.	食生活（調理理論）		調理操作について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
7.	食生活（調理理論）		調理技術について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
8.	家庭生活の経営		家計について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
9.	衣生活（被服）		衣類について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
10.	衣生活（洗濯）		洗濯表示について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
11.	住生活（安全・快適な住まい）		住居について調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
12.	住生活（安全・快適な住まい）		快適な住まいについて調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
13.	住生活（ユニバーサルデザイン・レイアウト）		ユニバーサルデザインについて調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
14.	住生活（レイアウト）		住居のレイアウトについて調べておくこと。（2時間）	今回の講義で学んだ内容について復習しておくこと。（2時間）
15.	まとめ、授業評価アンケート		今までの講義で学んだ内容を復習しておくこと。（2時間）	授業全体を振り返る(2時間)
教科書	プリントを配布します。			
参考書	授業中に紹介します。			
学習成果の評価方法	レポート（40%）・課題提出（20%）ワークシート（30%）授業への参加度（10%） レポート・課題・ワークシートについては、評価・フィードバックをした上で返却します。			
特記すべき事項	毎回の出席は、授業開始時の応答により確認します。レポート・課題等は、提出期限を厳守してください。			
質問・相談等の受付	質問・相談は授業終了後に受付ます。			

科目	介護過程		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 折居 明日香		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>介護福祉士に必要な専門知識、技術を根拠とした客観的で科学的な思考過程による介護過程展開能力を養う。さらに介護過程に基づいた生活支援が利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを理解する。他の科目で学習した知識や技術を総合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。授業では、介護過程の意義、目的について学び、生活支援の考え方と介護過程の必要性を理解し、自立へ向けた介護過程の実践的展開を学習する。この授業は、介護福祉士として実務経験（高齢者施設）のある教員が根拠に基づき講義・演習を行う。</p>			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護過程の意義、目的が十分に理解できる。	DP1	定期試験および授業中に質問で介護過程の意義について6割以上解答できる。	
2.	生活支援システムとして展開される介護過程を理解し、介護を取り巻く問題とニーズに応えることができる。	DP3	自分自身も含め、生活するうえでの課題を見つけ支援システムについて、レポートとしてまとめることができる。	
3.	ICFの理解と、介護過程の体系が理解できる。	DP2,4	アセスメントシートを活用して、提示された症例への介護計画が立案できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 介護実践における介護過程の意義と目的		シラバス、テキストに目を通して おく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
2.	介護過程の意義と基礎的理解 （介護過程における介護サービス実践の根拠）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
3.	介護過程の意義と基礎的理解 （生活支援システムの一環として展開される介護過程）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
4.	介護過程の意義と基礎的理解 （生活支援システムの一環として展開される介護過程）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
5.	介護過程の意義と基礎的理解（ICFの理解）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
6.	介護過程の意義と基礎的理解 （ICFの考え方を介護にどう活かすか）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
7.	介護過程の意義と基礎的理解（支援関係の体系）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
8.	介護過程の意義と基礎的理解（支援関係の形成）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
9.	アセスメントの理解		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
10.	アセスメントの方法		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
11.	介護計画の立案		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
12.	介護計画の立案		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
13.	介護計画の実施		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
14.	介護計画実施の評価		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（30分）	講義で学んだ内容を整理し、ノ ートにまとめる（30分）
15.	本授業のまとめ		授業を振り返り、疑問や質問等を 確認しておく（30分）	講義で学んだ内容や全体を把握し て定期試験に臨む。（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護過程」中央法規出版			
参考書	なし			
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、レポート（20%）、演習等に取り組む姿勢（10%）を総合的に評価する。 レポートはフィードバック後、返却します。			
特記すべき事項	演習課題レポート、グループワークレポート等の提出物は、提出期限を厳守して下さい。			
質問・相談等の受付	質問、相談等があるときは、授業終了後の教室または授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。			

科目	介護過程（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	<p>本人の望む生活の現実に向けて、生活課題を分析し根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程が習得できるよう学ぶ。</p> <p>各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 要介護者主体の介護過程が展開できるようになる。</p>			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護過程の展開を支える考え方を理解する。	CP1	ICFの仕組みを理解し、要介護者のアセスメント内容を分析できるようになる。	
2.	介護実習での介護過程の展開を実践し、介護計画の立案、実践ができる。	CP3,4	担当する要介護者を理解するための、意図的な情報収集、課題とニーズの明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。	
3.	介護過程のプロセスや実践内容や経過・結果をまとめ発表できるようになる。	CP2	授業での事例研究、や護実習でのカンファレンス、介護職実践セミナーで、介護過程での実践の根拠や経過・評価考察等を他者に伝えることができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション。学習成果について（評価基準・評価方法） 「介護過程とは」 介護過程の意義と基礎的理解 - 1		シラバス、テキストに目を通しておく（30分）	介護過程のプロセスについて復習（30分）
2.	「介護過程の意義と基礎的理解 - 2」 「介護過程の個別的ケアとは」		介護過程とは何かを予習（30分）	日常生活における生活の過程について復習する（30分）
3.	「介護過程の意義と基礎的理解 - 3」 「ICFとは」		ICFについて予習（30分）	ICFとは何かを復習する（30分）
4.	「介護過程の意義と基礎的理解 - 4」 「セルフケア理論とニーズ論とは」		セルフケア理論、ニーズ理論について予習（30分）	セルフケア理論、ニーズ理論について復習（30分）
5.	「介護過程の意義と基礎的理解 - 5」 「アセスメントの枠組み」		アセスメントについて（30分）	事例に基づいたアセスメント方法を復習する（30分）
6.	「介護過程の意義と基礎的理解 - 6」 「課題とニーズの明確化」		課題とは何か、ニーズとは何かを予習（30分）	介護過程における課題とニーズをまとめる（30分）
7.	事例検討：「学生生活編」個別検討		前回学んだアセスメントについて予習（30分）	事例検討 について振り返る（30分）
8.	事例検討：グループワーク		前回学んだ課題とは何か、ニーズとは何かを予習（30分）	事例検討 について振り返る（30分）
9.	事例検討：グループワーク		事例検討 について読み返す（30分）	グループメンバーの意見をまとめる（30分）
10.	事例検討：グループ発表		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
11.	事例検討：グループ発表・まとめ		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
12.	介護過程展開のためのプロセスー1 「介護過程の展開とアセスメントとプロセス」		介護過程の展開について予習（30分）	介護過程の展開について復習する（30分）
13.	介護過程展開のためのプロセスー2 「意図的な情報収集」		介護過程のための情報収集について予習（30分）	情報収集の方法について復習する（30分）
14.	介護過程展開のためのプロセスー3 「課題とニーズの明確化」		介護過程のための課題とニーズについて予習（30分）	ニーズの明確化の方法について復習する（30分）
15.	介護過程展開のためのプロセスー4 「介護計画の立案」		介護過程のための介護計画立案について予習（30分）	介護計画の立案について復習する（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護過程」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（70%）、レポート作成及び発表（25%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	専攻科で学ぶすべての科目内容理解し、介護過程の実践に活用する。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16:30~17:30）にお出でください			

科目	介護過程（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	本人の望む生活の現実に向けて、生活課題を分析し根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程が習得できるよう学ぶ。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 要介護者主体の介護過程が展開できるようになる。			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護過程の展開を支える考え方を理解する。	CP1	ICFの仕組みを理解し、要介護者のアセスメント内容を分析できるようにする。	
2.	介護実習での介護過程の展開を実践し、介護計画の立案、実践ができる。	CP3,4	担当する要介護者を理解するための、意図的な情報収集、課題とニーズの明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。	
3.	介護過程のプロセスや実践内容や経過・結果をまとめ発表できるようになる。	CP2	授業での事例研究、や護実習でのカンファレンス、介護職実践セミナーで、介護過程での実践の根拠や経過・評価考察等を他者に伝えることができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	事例検討：1-「アニメからのアセスメント方法と介護計画に立案」個別検討		介護過程の展開の事例検討方法を予習（30分）	事例検討 について振り返る（30分）
17.	事例検討：2-グループワーク		個別で検討した事例検討 について予習（30分）	事例検討 について再度振り返る（30分）
18.	事例検討：2-グループワーク		個別で検討した事例検討 のグループの意見をまとめる（30分）	発表に向けてのグループでの意見や紙面構成を振り返る（30分）
19.	事例検討：3-グループ発表		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
20.	事例検討：3-グループ発表、まとめ		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
21.	事例検討：1-「DVDからのアセスメント方法と介護計画に立案」個別検討		事例検討 の内容について予習（30分）	事例検討 について振り返る（30分）
22.	事例検討：2-グループワーク		個別で検討した事例検討 について予習（30分）	事例検討 について再度振り返る（30分）
23.	事例検討：2-グループワーク		個別で検討した事例検討 のグループの意見をまとめる（30分）	発表に向けてのグループでの意見や紙面構成を振り返る（30分）
24.	事例検討：3-グループ発表		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
25.	事例検討：3-グループ発表、まとめ		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
26.	事例検討：1-「具体的な事例によるアセスメント方法と介護計画に立案」個別検討		事例検討 の内容について予習（30分）	事例検討 について振り返る（30分）
27.	事例検討：2-グループワーク		個別で検討した事例検討 について予習（30分）	事例検討 について再度振り返る（30分）
28.	事例検討：2-グループワーク		個別で検討した事例検討 のグループの意見をまとめる（30分）	発表に向けてのグループでの意見や紙面構成を振り返る（30分）
29.	事例検討：3-グループ発表		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
30.	事例検討：3-グループ発表、まとめ		発表に関する質疑応答について検討する（30分）	各グループが発表した内容をまとめる（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護過程」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（70%）、レポート作成及び発表（25%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	専攻科で学ぶすべての科目内容理解し、介護過程の実践に活用する。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16:30~17:30）にお出でください			

科目	介護過程（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	本人の望む生活の現実に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程が習得できるよう学ぶ。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う となる要介護者の能力を引き出し、本人主体の生活を継続できるための介護過程が展開できるようになる。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護過程の展開を支える考え方を理解する。	DP1, 2	ICFの仕組みを理解し、要介護者のアセスメント内容を分析できるようにする。	
2.	介護実習での介護過程の展開を実践し、介護計画の立案、実践ができる。	DP1, 3	担当する要介護者を理解するための、意図的な情報収集、課題とニーズの明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。	
3.	介護過程のプロセスや実践内容や経過・結果をまとめ発表できるようになる。	DP1, 4	授業での事例研究、や実習でのカンファレンス、介護職実践セミナーで、介護過程での実践の根拠や経過・評価考察等を他者に伝えることができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション。学習成果について（評価基準、評価方法） 介護実習における介護過程展開の振り返り		介護実習での介護過程を振り返る（30分）	介護過程の実践内容を再構築する（30分）
2.	介護実習における介護過程展開の振り返り		介護実習での介護過程を振り返る（30分）	介護過程の実践内容を再構築する（30分）
3.	介護職実践セミナーレポート発表と要旨集制作の意義		レポートのテーマや構成について予習（30分）	介護過程をまとめレポートを構成する（30分）
4.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－1		レポートのテーマや構成について予習（30分）	介護過程をまとめレポートを構成する（30分）
5.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－2		レポート内容に必要な参考文献を調べる（30分）	必要な参考文献をまとめる（30分）
6.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－3		レポートで伝えるべき内容を再構成する（30分）	指導されたレポート内容を再構成する（30分）
7.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－4		レポートで伝えるべき内容を再構成する（30分）	指導されたレポート内容を再構成する（30分）
8.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－5		パワーポイントの内容を検討する（30分）	指導されたパワーポイントの内容を考える（30分）
9.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－6		パワーポイントの内容を検討する（30分）	指導されたパワーポイントの内容を考える（30分）
10.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－7		パワーポイントの内容を検討する（30分）	指導されたパワーポイントの内容を考える（30分）
11.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－8		レポート内容を時間内で発表できるようにする（30分）	発表の読み原稿を作成する（30分）
12.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－9		作成した読み原稿で発表の練習をする（30分）	指導された発表内容を検討する（30分）
13.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－10		作成した読み原稿で発表の練習をする（30分）	指導された発表内容を検討する（30分）
14.	介護職実践セミナーレポート・パワーポイント作成指導及び実施－11		発表レポートとパワーポイントと読み原稿のチェックをする（30分）	発表レポートとパワーポイントと読み原稿のチェックをする（30分）
15.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－1		発表レポート内容への質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分を再構築する（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護過程」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（50%）、介護職実践セミナーレポート作成及び発表（45%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	専攻科で学ぶすべての科目内容理解し、介護過程の実践に活用する。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16:30～17:30）にお出で下さい。			

科目	介護過程（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	本人の望む生活の現実に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程が習得できるよう学ぶ。 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う 対象となる要介護者の能力を引き出し、本人主体の生活を継続できるための介護過程が展開できるようになる。			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護過程の展開を支える考え方を理解する。	DP1, 2	ICFの仕組みを理解し、要介護者のアセスメント内容を分析できるようになる。	
2.	介護実習での介護過程の展開を実践し、介護計画の立案、実践ができる。	DP1, 3	担当する要介護者を理解するための、意図的な情報収集、課題とニーズの明確化、介護計画の立案、実践、評価考察ができる。	
3.	介護過程のプロセスや実践内容や経過・結果をまとめ発表できるようになる。	DP1, 4	授業での事例研究、や実習でのカンファレンス、介護職実践セミナーで、介護過程での実践の根拠や経過・評価考察等を他者に伝えることができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－2		発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
17.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－3		発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
18.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－4		発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
19.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－5		発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
20.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－6		発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
21.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－7		発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
22.	介護職実践セミナーレポート発表および指導－8		発表できるよう発表原稿とパワーポイント、質疑応答を検討する（30分）	指導を受けた部分などを再構築する（30分）
23.	介護過程とチームアプローチ1 「介護福祉職と介護過程」	「介護福祉職と介護過程」	介護福祉士としての介護過程について予習（30分）	介護福祉士としての介護過程についてまとめる（30分）
24.	介護過程とチームアプローチ2 「ケアカンファレンスの意義」	「ケアカンファレンスの意義」	ケアカンファレンスについて予習（30分）	ケアカンファレンスについてまとめる（30分）
25.	介護過程とチームアプローチ3 「多職種連携における介護過程の意義」	「多職種連携における介護過程の意義」	他職種連携の意義について予習（30分）	他職種連携の意義についてまとめる（30分）
26.	介護過程とチームアプローチ4 「介護計画と個別介護計画」	「介護計画と個別介護計画」	介護計画と個別介護計画について予習（30分）	介護計画の立案方法についてまとめる（30分）
27.	介護過程の展開の理解－1 「要介護者の状態・状況に応じた介護過程の展開とは」		要介護者理解のためのICFについて予習（30分）	ICFについてまとめる（30分）
28.	介護過程の展開の理解－2 「介護過程の事例検討の意義」		事例検討の意義について予習（30分）	事例検討内容を復習する（30分）
29.	介護過程の展開の理解－3 「介護過程の必要性と意義」		介護過程を学ぶ意義について振り返る（30分）	介護過程の意義について復習する（30分）
30.	介護過程の展開の理解－4 「まとめ」		介護過程の展開の意義を振り返る（30分）	介護過程の展開に必要なプロセスを理解する（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護過程」中央法規出版			
参考書	授業中に説明及び資料配布			
学習成果の評価方法	筆記試験（50%）、介護職実践セミナーレポート作成及び発表（45%）、授業態度（5%）			
特記すべき事項	専攻科で学ぶすべての科目内容理解し、介護過程の実践に活用する。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16：30～17：30）にお出で下さい。			

科目	介護総合演習（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授 緒方 まゆみ 教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設などの概要を習得し、介護実習の重要性を理解する。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等を身につけて、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。実習後に行う介護職実践セミナーに向けて研究的態度で実習に臨む。介護実習の目標設定や課題を抽出し、実習事前に自己学習を行う。実習の準備と基礎知識として実習施設について学び、そこで働く他職種についての知識も習得する。実習記録や介護過程の展開法について習得する。チームケアのありかた、ケアカンファレンスの持ち方を学ぶ。 *この科目は看護師・介護福祉士として病院や施設などで実務経験5年以上の経験を持つ教員が担当する。</p>			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護実習の目標が明確になり、課題を見つけるとともに社会に貢献できる実践力を身につけることができる	DP2 DP3	実習施設において目標、課題について明確に伝えることができ、達成感を認識できるようになる	
2.	観察、傾聴、コミュニケーション、リーダーシップなどの力を身につけ、多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようになる。	DP2	実習記録物、介護過程の展開記録、施設よりの評価を基準とする	
3.	実習後の集大成として事例研究や実習全体のレポートができる	DP2 DP3	介護職実践セミナーの要旨集を完成できる	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション(学習成果、評価方法、評価基準) 介護実習 体験を通じた学びの展開と目標		保育実習を振り返り、自身の学びについて考える（30分）	講義で学んだ内容を再考する（30分）
2.	介護実習の概要 介護総合演習の目的 「介護実習」に対する意気込みや期待について発表をする。		テキストを読み介護実習について考える（30分）	講義で学んだ内容を再考し実習の重要性を考える（30分）
3.	介護福祉実習の全体像 厚生労働省が示す「介護実習」のねらいについて学ぶ		テキストを読み福祉系実習について考える（30分）	講義で学んだ内容を再考し実習で何を学ぶべきかを考える（30分）
4.	介護実習の展開過程と課題 「介護実習」での学びのポイントについてグループディスカッションを行う		テキストを読み介護実習の課題は何か考える（30分）	講義で学んだ内容を再考し実習の概要や課題について考える（30分）
5.	実習の準備と基礎知識 図書館での調べ学習。実習施設の種類を調べ、その法的根拠から現状までを学ぶ		関連図書を読み実習施設について調べる（30分）	施設の法的根拠、現状等を調べレポートに取り掛かる（30分）
6.	実習施設等の理解 前回の調べ学習で得た情報をレポート発表する		関連図書を読み実習施設について調べる（30分）	施設の法的根拠、現状等を調べレポートを提出する（60分）
7.	見る、聴く、話す、まとめる力を育てる 個別ケアの視点を中心に思考の過程を学ぶ		実習のしおりに目を通しておく（30分）	実習のしおりの内容を確認し不明な点を調べる（30分）
8.	実習計画について、及び立案の仕方 介護実習の具体的な計画、記録等についてグループで話し合いレポートにまとめる		テキストを読み介護実習や介護計画とは何かについて考える（30分）	介護実習の具体的な計画、記録等について考える（30分）
9.	実習記録について 1 言葉をたくさん知る 2 数学的な思考（推論）3 共感力を育てる		テキストを読み介護実習における記録について考える（30分）	介護実習の具体的な計画、記録等について考える（30分）
10.	実習記録の実際 本専攻科の実習記録用紙について説明。効果的な記録の方法について学ぶ。		テキストや参考図書を中心に読み記録の書き方について考える（30分）	介護実習の具体的な計画や記録を自分自身の生活をもとに記入してみる（30分）
11.	実習における指導と相談 実習のしおりに沿って説明。実習中における報告・連絡・相談についてグループワークを通して学ぶ。		実習のしおりに目を通しておく（30分）	チームケアやケアカンファレンスの持ち方についてグループ討議とレポート提出（30分）
12.	チームケアについて、ケアカンファレンスについて 実習中に行われるグループカンファレンスを想定してデモンストラーションを行う		テキストを読みチームケアについて考える（30分）	チームケアやケアカンファレンスの持ち方についてグループ討議とレポート提出（30分）
13.	介護実習と介護過程の展開 「介護過程」「介護過程」と連動してアセスメントについて考える（アセスメントシート利用）		介護過程のテキストを読みアセスメントを理解する（30分）	アセスメントシート記入方法と必要性を理解しレポート提出（30分）
14.	介護実習 事前指導 「介護実習」に臨むつもりでより具体的に目標を考え、個人票を作成する		介護実習の目的を明確にし、目標を具体的にあげられるようにする（30分）	実習の目的や目標を記入し個人票の仕上げをする（30分）
15.	介護実習 事前指導 「介護実習」に臨むつもりでより具体的に目標を考え、個人票を作成する		介護実習の目的を明確にし、目標を具体的にあげられるようにする（30分）	実習の目的や目標を記入し個人票の仕上げをする（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護総合演習・介護実習」（中央法規）			
参考書	「介護記録の書き方・読み方・活かし方」（中央法規） その他授業中に適宜紹介します。			
学習成果の評価方法	レポート提出(50%)、グループワーク参加(40%)、受講態度(10%)等で総合的に評価します。 レポートは評価、フィードバック後に返却します。			
特記すべき事項	記録等の提出物については時間厳守してください。遅れた場合は減点対象となります。			
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来てください。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。 研究室対応は金曜日16:30～17:30に行います。			

科目	介護総合演習（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授 緒方 まゆみ 教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設などの概要を習得し、介護実習の重要性を理解する。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等を身に付けて、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。実習後に行う介護職実践セミナーに向けて研究的態度で実習に臨む。介護実習の目標設定や課題を抽出し、実習事前に自己学習を行う。実習の準備と基礎知識として実習施設について学び、そこで働く他職種についての知識も習得する。実習記録や介護過程の展開法について習得する。チームケアのありかた、ケアカンファレンスの持ち方を学ぶ。 *この科目は看護師・介護福祉士として病院や施設などで実務経験5年以上の経験を持つ教員が担当する。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	介護実習の目標が明確になり、課題とともに社会に貢献できる実践力を身に付けることができる。	DP2 DP3	実習施設において目標、課題について明確に伝えることができ、達成感を認識できるようになっている	
2.	観察、傾聴、コミュニケーション、リーダーシップなどの力を身に付け、多面的に考察し様々な状況に対応することができる。	DP2	実習記録物、介護過程の展開記録、施設よりの評価を基準とする	
3.	実習後の集大成として事例報告(介護過程の展開)や実習全体のレポートができる。	DP2 DP3	介護職実践セミナーの要旨集を完成でき、さらに、パワーポイントを用いて発表することができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 介護実習 事後指導		実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	実習前半の振り返りと今後の課題についてレポート提出
2.	介護実習 事後指導 実習施設の評価を受けて各自フィードバックを行う		実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	実習前半の振り返りと今後の課題についてレポート提出
3.	介護実習 事例研究指導 実習 で経験した事例をもとに課題と向き合う。レポート作成		事例研究について調べておく（30分）	事例についてレポート準備をする（30分）
4.	介護実習と介護過程の展開 「介護過程」と連動して介護過程の展開について学ぶ アセスメントから具体的行動計画まで		介護過程についてテキストを読んでおく（30分）	事例についてレポート準備をする（30分）
5.	介護実習と介護過程の展開 「介護過程」と連動して介護過程の展開について学ぶ 実践内容についてから評価・考察まで		介護過程についてテキストを読んでおく（30分）	介護過程の展開の用紙を完成する
6.	障がい児(者)の支援計画 実習 の施設で出会うであろう障がい者について学ぶ		テキストを読んで障害者について調べておく（30分）	講義で学んだ障害児の支援を再考する（30分）
7.	介護実習 事前指導 実習 の目的を明確にして個人票を作成する 実習 に臨む姿勢について学ぶ		介護実習 について調べて置く	介護実習 について実習のしおりを読んで準備を行う
8.	介護実習 事前指導 実習 の目的を明確にして個人票を完成する		介護実習 について調べて置く	介護実習 について実習のしおりを読んで準備を行う
9.	介護実習 中間指導(学内研究日) 担当利用者の介護計画を見直す		実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	介護過程の展開実施
10.	介護実習 事後指導 実習施設の評価を受けて各自フィードバックを行う		実習中の疑問質問を挙げておく（30分）	実習 の振り返りを行う（30分）
11.	介護実習 および 事例研究指導 介護職実践セミナーに向けて研究テーマを決め、研究内容を明確にする		事例研究について調べておく（30分）	介護職実践セミナーに向けてレポート原稿、パワーポイントの準備をする
12.	介護実習 および 事例研究指導 介護職実践セミナーに向けて研究テーマを決め、研究内容に取り組む		事例研究について調べておく（30分）	介護職実践セミナーに向けてレポート原稿、パワーポイントの準備をする
13.	事例研究発表		発表に向けて準備を行う（30分）	介護職実践セミナーに向けてレポート原稿、パワーポイントの準備をする
14.	事例研究発表の評価と考察 研究内容を振り返り今後に向けて自己評価を行う		セミナー発表後の自己評価を行う（30分）	セミナー発表後の自己評価を行う（30分）
15.	本授業のまとめと介護実習のまとめ		介護実習を振り返る（30分）	介護実習を振り返る（30分）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編 「介護総合演習・介護実習」（中央法規）			
参考書	「介護記録の書き方・読み方・活かし方」（中央法規） その他授業中に適宜紹介します			
学習成果の評価方法	レポート提出(50%)、グループワーク参加(40%)、受講態度(10%)で総合的に評価します。レポートは評価、フィードバック後に返却します。			
特記すべき事項	記録等の提出物については時間厳守してください、遅れた場合は減点対象となります。			
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来てください。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。研究室対応は金曜日16:30~17:30に行います。			

科目	介護実習		開講時期 履修方法	1年前期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授 緒方 まゆみ 教授 角 眞由美		授業形態 単位数	学外実習 1.3単位
授業概要	<p>講義、演習を通して学んだ理論と技術を、実習を通して統合・活用し理解を深める。また、職業倫理を身に付けるとともに、実践体験を整理し理論化して行く。更に「人間の尊厳」という理念のもと、利用者の「自立」を支援していくことができる能力を養う。介護施設を利用する利用者への理解を深めるためのコミュニケーション能力や個別介護を学ぶ。実習施設の概要や関連職種との連携を理解する。介護実習記録や介護過程の展開内容を適切に記述できるようになる。カンファレンスでは、自身の考えを発表できるようになる。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	利用者の個性を理解するアセスメント能力を身に付け、介護を取り巻く問題に関心を持ち、ニーズに応えることができる。	DP2,3	コミュニケーション能力が養われていること。利用者への観察力がありアセスメントを通して利用者の生活ニーズを抽出できていること。	
2.	日常生活支援や身体介護など介護に関する専門知識・介護技術を身に付けることができる。	DP2,4	疾病や障害に対する知識を基に利用者を支援できること。基礎的な介護技術の知識や技術を応用し個別的な身体介護ができること。	
3.	介護過程の展開を実践・研究することができる	DP1,2	ICFを活用したアセスメント方法で、利用者のニーズを明確にし、担当利用者の介護過程が展開できる。介護実習記録が適切に記述できること。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
	<p>学習成果について（評価基準・評価方法）</p> <p>介護実習・・・7日間</p> <p>介護実習場所・・・老人保健施設、特別養護老人ホーム、小規模多機能施設、通所介護施設、訪問介護施設など</p> <p>介護実習内容・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の尊厳を護り個性を理解し、その人らしい日常生活支援を学ぶ。</li> <li>・介護サービスが必要な利用者の在宅生活や介護施設での日常生活を理解する。</li> <li>・利用者の個性を理解し、コミュニケーションを図ることができる。</li> </ul> <p>・日常生活支援における介護サービスの必要性を学び、個別的な会議技術を学ぶ。</p> <p>・チームケアの一員としての介護職の役割や多職種との連携を理解する。</p>		<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前までに学んだ全ての教科書を再度見直し実習に備える。</li> <li>・実習施設が決定したらその施設についての概要等を調べる。</li> <li>・実習に対する自分の目標を明確にしておく。</li> </ul> <p>【実習期間中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の実習内容を振り返り、目標に沿って学びと観察を記録する。更に次の目標を立てて実習に臨む。</li> </ul>	<p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習で学び体験したことを振り返り実習のまとめと、記録類の整理をする。</li> <li>・まとめた記録類とともに自己評価を記入し実習施設に提出する。</li> <li>・施設からの評価を基にフィードバックを行う。</li> </ul>
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護総合演習・介護実習」中央法規			
参考書	「介護記録の書き方・読み方・活かし方」中央法規			
学習成果の評価方法	介護過程の展開（25%）、介護実習記録（25%）、実習施設指導者評価（50%）、実習終了後は個人面談を行いフィードバックする。			
特記すべき事項	介護実習では、毎日の実習記録に関連する疾病など調べ、レポート提出をする。（実習記録と共に施設側に提出）			
質問・相談等の受付	授業終了時、オフィスアワー（月・水・木曜日16:30～17:30）に研究室にて対応する。実習中の相談は前もって連絡を受け実習巡回時に対応する。			

科目	介護実習		開講時期 履修方法	1年後期 選択、介護福祉士必修
担当者	教授 緒方 まゆみ 教授 角 眞由美		授業形態 単位数	学外実習 3.7単位
授業概要	講義、演習を通して学んだ理論と技術を実習を通して総合・活用し理解を深める。また、職業倫理を身に付けるとともに、実践体験を整理し理論化して行く。更に「人間の尊厳」という理念のもと、利用者の「自立」を支援していくことができる能力を養う。介護施設を利用する利用者への理解を深めるためのコミュニケーション能力や個別介護を学ぶ。カンファレンスでは、自身の考えを発表できるようになる。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	利用者の個性を理解するアセスメント能力を身に付け、介護を取り巻く問題に関心を持ち、ニーズに応えることができる。	DP2,3	コミュニケーション能力が養われていること。利用者への観察力があり、アセスメントを通して利用者の生活ニーズを抽出できていること。	
2.	日常生活支援や身体介護など介護に関する専門知識・介護技術を身に付けることができる。	DP2,4	疾病や障害に対する知識を基に利用者を支援できること。基礎的な介護技術に知識や技術を応用し個別的な身体介護ができること。	
3.	介護過程の展開を実践・研究することができる。	DP1,2	ICFを活用したアセスメント方法で、利用者のニーズを明確にし、担当利用者野介護過程が展開できる。介護実習記録が適切に記述できること。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
	<p>学習成果について（評価基準、評価方法）</p> <p>介護実習・・・20日間</p> <p>介護実習場所・・・老人保健施設、特別養護老人ホーム、身体障害者（児）療護施設など</p> <p>介護実習内容・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICFを活用したアセスメント方法で、施設で生活する利用者のニーズを明確にする。</li> <li>・担当利用者野介護過程の展開（アセスメント、ニーズの把握、介護計画の立案・実施・評価・考察）を行い、根拠（エビデンス）に基づいた個別ケアを実践する。</li> <li>・利用者本位の介護サービスを提供するためには、他職種共同によるチーム体制であることを理解する。</li> <li>・人権擁護、職業倫理を身に付け、自らの介護観を構築する。</li> </ul>		<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前までに学んだ全ての教科を再度見直し実習に備える。</li> <li>・実習施設が決定したらその施設についての概要を調べる。</li> <li>・実習に対する自分の目標を明確しておく。</li> </ul> <p>【実習期間中】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の実習内容を振り返り、目標に沿って学びと考察を記録する。更に次の目標を立てて実習に臨む。</li> <li>・担当利用者の介護過程について、学内研究を行う。</li> </ul>	<p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習で学び体験したことを振り返り実習のまとめと記録類の整理をする。</li> <li>・まとめた記録類と自己評価と共に自己評価を記入し、実習施設に提出する。</li> <li>・実習施設からの評価を基にフィードバックを行う。</li> <li>・介護過程の展開を振り返り「介護職実践セミナー」に備える。</li> </ul>
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「介護総合演習・介護実習」中央法規出版			
参考書	「介護記録の書き方・読み方・活かし方」中央法規			
学習成果の評価方法	介護過程の展開（25%）、介護実習記録（25%）、実習施設指導者評価（50%）、実習終了後は、個人面談を行いフィードバックを行う。			
特記すべき事項	介護実習では、毎日の実習記録に関連する疾病などを調べレポートを提出する（実習記録と共に実習施設に提出）			
質問・相談等の受付	授業終了時、オフィスアワー（月・水・木曜日16:30～17:30）に研究室にて対応する。実習中の相談は前もって連絡を受け実習巡回時に対応する。			

科目	発達と老化の理解		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 萬竹 恵美		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>発達の視点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴など基礎的知識を習得する。本授業で学習した発達心理学、教育心理学の知見をもとに、乳幼児から高齢者に至る人の生涯の発達段階と援助の仕方について理論と実践の融合性の重要性を習得する。</p> <p>人間の成長と発達の基礎的理解をし、老年期の発達と成熟、老化に伴うこころとからだの変化と日常生活を学ぶ。厚生労働省のガイドラインに示された領域「こころとからだのしくみ」より、介護サービスを提供するに際して、利用者の尊厳と自立への支援の意味を十分理解し、利用者のQOL(生活の質)を高めるために必要な発達と老化に関する基礎的知識について学ぶ。</p>			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	人間の成長と発達について基礎的知識を習得する。	DP1	重要項目について授業中復習を兼ねた質問にて解答できる。	
2.	老化に伴うこころとからだの変化、高齢者の疾病とその特徴について理解する。	DP2,3	定期試験およびミニテストで6割以上解答できる。	
3.	高齢者の援助のあり方と留意点を理解する。	DP4	老化を理解した上で、高齢者介護時の留意点について発表できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 人間の成長と発達の基礎的知識		テキストP2～17を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
2.	人間の発達段階と発達課題 発達理論 発達段階と発達課題 身体的機能の成長と発達		テキストP20～46を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
3.	人間の発達段階と発達課題 心理的機能の発達 社会的機能の発達		テキストP47～67を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
4.	老年期の特徴と発達課題		テキストP70～107を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
5.	老化にともなう身体的な変化と生活への影響		テキストP110～142を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
6.	老化にともなう心理的变化と生活への影響		テキストP143～163を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
7.	老化にともなう社会的変化と生活への影響		テキストP164～185を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
8.	健康長寿に向けての健康、症状・疾患の特徴 1～7回までのミニテスト		テキストP188～201を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
9.	高齢者に多い症状と生活上の留意点 骨格系・筋系		テキストP202～216を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
10.	高齢者に多い症状と生活上の留意点 脳・神経系 皮膚・感覚器系		テキストP217～227読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
11.	高齢者に多い症状と生活上の留意点 循環器系 呼吸器系		テキストP228～240を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
12.	高齢者に多い症状と生活上の留意点 消化器系 腎・泌尿器系		テキストP241～266を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
13.	高齢者に多い症状と生活上の留意点 内分泌・代謝系 歯・口腔疾患		テキストP251～266を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
14.	高齢者に多い症状と生活上の留意点 悪性新生物（がん） 感染症 精神疾患 その他		テキストP266～293を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
15.	本授業のまとめと他科目との関連性		テキストP294～299を読んでおく（2時間）	本授業を振り返り定期試験に備える（2時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「発達と老化の理解」中央法規			
参考書	授業中に適宜紹介及び配布します。			
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、ミニテスト及びレポート（20%）、授業態度等（10%）で総合的に評価します。ミニテスト及びレポートはフィードバック後返却します。			
特記すべき事項	授業中の私語は厳禁とします。			
質問・相談等の受付	授業中にその都度受け取ります。内容により即答、次回持越しとします。			

科目	認知症の理解（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 萬竹 恵美		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	[授業の目的・ねらい]認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 [授業全体の内容の概要]認知症を取り巻く状況や医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこととからだの変化と日常生活について学ぶ。また、認知症の進行に応じた介護のあり方や、生活継続のために、どのようにかわれば良いか、認知症の人が地域で暮らすためのサポート体制について学ぶ。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	認知症の理解、原因、症状、予防について医学的側面から基礎知識を習得することができる。	DP1	定期試験及びミニテストで認知症に関する基礎知識について6割以上解答できる。	
2.	認知症の人の心理的理解を深めることができる。	DP2,3	認知症の行動・心理症状について理解し、利用者とのコミュニケーション対応ができる。	
3.	認知症ケアの基礎を習得することができる。	DP4	事例検討において、個人またはグループでその対応について発表できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法・評価基準） 認知症とは何か（定義と判断基準）、ケアの歴史と理念・倫理について		テキストP2～11、P100～113を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
2.	認知症の基礎的理解 脳のしくみ 認知症の人の心理		テキストP12～29を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
3.	認知症の症状・診断・治療・予防 診断と重症度 原因疾患と症状・生活障害		テキストP62～86を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
4.	認知症の症状・診断・治療・予防 中核症状の理解		テキストP32～39を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
5.	認知症の症状・診断・治療・予防 生活障害の理解 治療薬 予防		テキストP40～46、P87～97を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
6.	認知症の症状・診断・治療・予防 BPSDの理解		テキストP47～61を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
7.	1～6回までのミニテスト		1～6回までの復習（2時間）	回答できなかった点をノートにまとめる（2時間）
8.	若年性認知症について		テキストP83～84、P303～305を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
9.	若年性認知症について		テキストP83～84、P303～305を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
10.	認知症ケアの視点について		テキストP115～117、P123～138を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
11.	認知症ケアにおけるかわりについて パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、バリテーション		テキストP117～122、P140～148、P217～224を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
12.	認知症の人とその家族への支援		テキストP25～29、P47～61を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
13.	認知症の人とその家族への支援		テキストP25～29、P47～61を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
14.	認知症の人とその家族への支援		テキストP25～29、P47～61を読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
15.	認知症高齢者の現状と今後 本授業のまとめ		テキストP100～107を読んでおく、 本授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく（2時間）	本授業を振り返り定期試験に備える（2時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「認知症の理解」中央法規			
参考書	授業中に適宜紹介および配布します 参考DVD：認知症の人の体験世界を感じてみよう～認知症介護の原点として～、よくわかる認知症の知識と対応、明日の記憶、毎日がアルツハ			
学習成果の評価方法	定期試験（70%）、ミニテスト及びレポート（20%）、授業態度等（10%）で総合的に評価します ミニテスト及びレポートはフィードバック後返却します			
特記すべき事項	授業中の私語は厳禁とします			
質問・相談等の受付	授業中にその都度質問を受けます。（内容により即答、次回持ち越しとします）			

科 目	認知症の理解（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 折居 明日香		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>認知症に関する基礎知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。また、認知症を取り巻く状況や医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うことからの変化と日常生活について理解し、認知症の進行に応じた介護のあり方や、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて学ぶ。</p> <p>この授業は、介護福祉士として実務経験（高齢者施設）のある教員が根拠に基づき講義を行う。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	認知症の理解、原因、症状、予防について医学的側面から基礎知識を習得することができる。	DP1,3	定期試験およびミニテストで認知症に関する基礎知識について6割以上解答できる。	
2.	認知症の人の心理的理解を深めることができる。	DP4	認知症の行動、心理状態について理解し、疑似体験、ロールプレイングにて、利用者とのコミュニケーション対応ができる。	
3.	認知症ケアの基礎知識を習得することができる。	DP2	事例検討において、個人またはグループで、その対応について発表することができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 認知症が及ぼす心理的影響		シラバス、テキストに目を通しておく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
2.	認知症の人の特徴的な心理行動		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
3.	認知症の人の特徴的な行動障害		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
4.	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
5.	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
6.	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
7.	若年性認知症の人の生活の理解と支援		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
8.	若年性認知症の人の生活の理解と支援		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
9.	地域におけるサポート体制		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
10.	地域におけるサポート体制		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
11.	介護者支援（家族への支援）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
12.	介護者支援（家族への支援）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
13.	連携と協働（チームアプローチ）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
14.	連携と協働（チームアプローチ）		テキストの講義予定範囲を 読んでおく（2時間）	講義で学んだ内容や疑問等をノートにまとめる（2時間）
15.	本授業のまとめ		後期授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく（2時間）	後期授業を振り返り定期試験に備える（2時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「認知症の理解」 中央法規			
参考書	なし			
学習成果の評価方法	定期試験（80%）、ミニテスト及びレポート（10%）、授業態度等（10%） ミニテストおよびレポートはフィードバック後返却します。			
特記すべき事項	授業中の私語は厳禁とします。			
質問・相談等の受付	質問、相談等があるときは、授業終了後の教室または授業の前後に非常勤講師室にて受け付けます。			

科 目	障害の理解		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 大川 絹代		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	障害の概念を学び、障害の医学的、心理的側面の基礎的な知識を学ぶ。さらに、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協働、家族への支援について理解する。 また、障害のある人の地域生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援について理解するための基礎的な知識を習得する。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	障害の概念や障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解する。	DP1,3	定期試験およびレポートで6割以上解答できる。	
2.	障害のある人のライフステージや特性を踏まえ、心身への影響や心理的な変化を理解し、QOLを高める支援につなぐことができるようになる。	DP1	講義中の質問への解答、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
3.	障害のある人と家族を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解する。	DP3	講義中の発表、レポートで考えをまとめ解答することができる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	学習成果について（評価方法、評価基準） 障害の概念と障害者福祉の基本理念		教科書1章1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
2.	障害者福祉に関連する制度と介護保険制度		教科書1章3.4熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
3.	障害のある人の心理と肢体不自由（運動機能障害）		教科書2章1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
4.	視覚障害		教科書2章3熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
5.	聴覚・言語障害		教科書2章4熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
6.	重複障害		教科書2章5熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
7.	内部障害		教科書2章6熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
8.	重症心身障害		教科書2章7熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
9.	知的障害		教科書3章1熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
10.	精神障害		教科書3章2熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
11.	高次脳機能障害		教科書3章3熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
12.	発達障害		教科書3章4熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
13.	難病		教科書3章5熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
14.	地域のサポート体制とチームアプローチ		教科書4章1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
15.	家族への支援		教科書5章1.2熟読（2時間）	講義内容、配布資料のまとめ（2時間）
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解」中央法規			
参考書	適宜配布			
学習成果の評価方法	試験70%、レポート20%、授業参加度10%。レポートはフィードバック後、返却します。			
特記すべき事項	遅刻、早退、欠席は必ず本人が直接理由等を申し出ること。			
質問・相談等の受付	質問などがある場合にはオフィスアワー（月曜15時～16時30分）に研究室へ来てください。			

科目	こころとからだのしくみ(前期)		開講時期 履修方法	1年前期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 緒方 まゆみ		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>人間の欲求や尊厳の理解をする上で大切な生理学、運動学、精神心理学等をもとに、加齢や疾患等でどのような生活障害が生じるかを学び、日常生活動作(ADL)や手段的日常動作(IADL)など人の行動に関連したこころとからだのしくみについての理解します。また、介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮についても理解します。 *この授業は看護師として臨床および訪問保健指導に10年以上携わった教員が事例等を参考に教授します。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	オリエンテーション(学習成果、評価方法、評価基準) 人間の欲求、尊厳について基本的理解ができる。	DP 1	定期試験で6割以上、授業中に行う小テストで8割以上をとること(小テストは随時再試験も行う)	
2.	こころとからだは相互に影響しあい意欲や行動などに影響を及ぼすことを理解できる。	DP 1	自分自身の意欲や行動に関してグループディスカッションを行い発表する。小テストで自分の意見を記録できる(小テストは随時再試験も行う)	
3.	人の行動と人体の解剖生理、疾病等介護福祉士として必要な専門知識を身に付けることができる。	DP 1	"授業中に行う小テストで8割以上をとること 解剖図を描き、人体はそれぞれに関連し合っていることをレポートを通して理解すること。"	
	授業計画(授業内容)		授業時間外学習	
			予習(必要時間)	復習(必要時間)
1.	オリエンテーション(学習成果、評価方法、評価基準) 人間の欲求の基本的理解について学ぶ(基本的欲求・社会的欲求など)		関連する書物を読み人間の欲求について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め自身の欲求について深く考えてみる(2時間)
2.	自己概念と尊厳・自己概念に影響する要因 尊厳という言葉にはどんな意味があるかグループワーク等でディスカッションを行う		関連する書物を読み自己概念について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め人間の尊厳について深く考えてみる(2時間)
3.	自己概念と尊厳・自己実現と生きがい 生きがいとは何かグループワーク等でディスカッションを行い発表をする		関連する書物を読み自己実現について学んでおく(2時間)	自己実現や生きがいについて深く考えてみる(2時間)
4.	こころのしくみの基礎、感情・意欲・動機づけのしくみ テキストを中心に動機づけのこころの仕組みについて学ぶ		関連するテキストを読み動機づけについて学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め動機づけについて深く考えてみる(2時間)
5.	こころのしくみの基礎、諸理論・思考・学習・記憶のしくみ テキストを中心に学習や記憶の種類について学ぶ		関連するテキストを読み記憶について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め学習・記憶について深く考えてみる(2時間)
6.	人体の構造と生理の理解(脳) テキストや参考図書をもとに脳の解剖生理について学ぶ		関連する図書を読み脳・解剖図について学んでおく(2時間)	"脳に関連する名称や働きを覚える(2時間)"
7.	人体の構造と生理の理解(呼吸器・循環器系) 人体モデルや自身の身体等を利用して呼吸器・循環器の解剖生理について学ぶ		関連する図書を読み呼吸・循環系・解剖図について学んでおく(2時間)	呼吸器・循環器に関連する名称や働きを覚える(2時間)
8.	人体の構造と生理の理解(消化器系) 人体モデルや自身の身体等を利用して消化器の解剖生理について学ぶ		関連する図書を読み消化系・解剖図について学んでおく(2時間)	消化器系に関連する名称や働きを覚える(2時間)
9.	人体の構造と生理の理解(泌尿器・生殖器系) 人体モデルや自身の身体等を利用して泌尿器・生殖器の解剖生理について学ぶ		関連する図書を読み泌尿器・解剖図について学んでおく(2時間)	泌尿器・生殖器に関連する名称や働きを覚える(2時間)
10.	人体の構造と生理の理解(筋・骨格系) 骨格モデル人形や自身の身体を利用して筋・骨格系の解剖生理を学ぶ。		関連する図書を読み骨筋系・解剖図について学んでおく(2時間)	筋・骨格系に関連する名称や働きを覚える(2時間)
11.	人の動きの基本である日常生活動作(ADL)と手段的日常生活動作(IADL)について事例とともに学ぶ		自分自身のADL・IADLについて深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含めADLについて深く考えてみる(2時間)
12.	身じたくに関連したこころとからだのしくみ ひとは身じたくをすることで心にどんな変化が起こるか、また、身じたくに必要な身体構造について学ぶ		自分自身の身じたくについて深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め身じたくについて深く考えてみる(2時間)
13.	移動に関連したこころとからだのしくみ ひとは移動をすることで心にどんな変化が起こるか、また、移動に必要な身体構造について学ぶ		自分自身の移動手段について深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め移動について深く考えてみる(2時間)
14.	移動に関連したこころとからだのしくみ 移動に関する事例をもとに、支援が必要になったときの援助法について学ぶ		関連する図書を読み移動について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め移動手段について深く考えてみる(2時間)
15.	授業前半のまとめと後半への導入		前半授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく(2時間)	前半授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく(2時間)
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「こころとからだのしくみ」(中央法規)			
参考書	「医学一般」(建帛社) その他にも授業中に適宜紹介します。			
学習成果の評価方法	定期試験(70%)、小テスト(20%)、レポート(10%)、で総合的に評価します。レポート・小テストは添削や採点后に返却します。			
特記すべき事項	授業時間に行う小テストは8割以上取れるまでは数回の再テストを受けてください。それにより定期試験に加算をします。 受けない場合は減点対象となる場合があります。"			
質問・相談等の受付	"質問がある場合は授業後に直接聞きに来てください。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。 研究室対応は金曜日16:30-17:00の間で行います。"			

科目	こころとからだのしくみ(後期)		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	講師 鵜殿 久美		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この科目では、介護技術の根拠となる人体の構造や機能、および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する。 人間の欲求、尊厳の理解をする上で大切な生理学、運動学、精神心理学等をもとの加齢や様々な疾患でどのような生活障害が生じるかを学び、ADL、IADLなど人の行動に関連したこころとからだのしくみについての理解を深める。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	人間の欲求、尊厳の基本的理解ができる。	DP1	定期試験で6割以上、授業中に行う小テストで8割以上をとること(小テストは随時再試験も行う)	
2.	こころとからだは相互に影響しあい意欲や行動などに影響を及ぼすことを理解できる。	DP1	定期試験で6割以上、授業中に行う小テストで8割以上をとること(小テストは随時再試験も行う)	
3.	人の行動と人体の解剖生理、疾病等介護福祉士として必要な専門知識を理解できるようになる。	DP1	授業中に行う小テストで8割以上をとること 解剖図を描き、人体はそれぞれに関連し合っていることをレポートを通して理解すること。	
	授業計画(授業内容)		授業時間外学習	
			予習(必要時間)	復習(必要時間)
1.	学修成果について(評価方法、評価基準) 食べることに関連したこころとからだのしくみ		関連する書物を読み人間と食について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め食事について深く考えてみる(2時間)
2.	食べることに関連したこころとからだのしくみ		関連する書物を読み栄養学について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め栄養学について深く考えてみる(2時間)
3.	口腔の清潔に関連したこころとからだのしくみ(DVD使用)		テキストを読み口腔ケアについて学んでおく(2時間)	様々な人への口腔ケアの方法を覚える(2時間)
4.	排泄に関連したこころとからだのしくみ		関連するテキストを読み人間と排泄について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め排泄について深く考えてみる(2時間)
5.	排泄の清潔に関連したこころとからだのしくみ		関連するテキストを読み排泄について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め排泄について深く考えてみる(2時間)
6.	排泄に関連したこころとからだのしくみ(DVD使用)		テキストを読み排泄援助方法について学んでおく(2時間)	様々な人への排泄介助方法を覚える(2時間)
7.	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ		関連する図書を読み人間と入浴・清潔について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め清潔について深く考えてみる(2時間)
8.	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ		テキストを読み入浴について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め入浴について深く考えてみる(2時間)
9.	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(DVD使用)		テキストを読み清潔援助方法について学んでおく(2時間)	様々な人への入浴介助方法を覚える(2時間)
10.	睡眠に関連したこころとからだのしくみ		関連する図書を読み人間と睡眠について学んでおく(2時間)	講義で学んだ内容を含め人間と睡眠について深く考えてみる(2時間)
11.	睡眠に関連したこころとからだのしくみ		テキストを読み睡眠について深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め良質な睡眠方法について考える(2時間)
12.	死にゆく人のこころとからだのしくみ		自分の死生観や身近な人との別れについて深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め人の死について深く考えてみる(2時間)
13.	死にゆく人のこころとからだのしくみ		人が終末期から死を迎えることの意味について深く考えてみる(2時間)	講義で学んだ内容を含め看取りから家族ケアまでを知る(2時間)
14.	本授業のまとめと他科目との関連性のまとめ		全授業を振り返り他科目との関連性に気付く(2時間)	全授業を振り返り他科目との関連性に気付く(2時間)
15.	本授業のまとめと他科目との関連性のまとめ		後半授業を振り返り疑問・質問点を挙げておく(2時間)	後半授業を振り返り定期試験に備える(2時間)
教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編「こころとからだのしくみ」中央法規			
参考書	「医学一般」建帛社			
学習成果の評価方法	定期試験(70%)、小テスト(20%)、レポート(10%)、で総合的に評価する。レポートは添削後に返却する。			
特記すべき事項	授業時間に行う小テストは8割以上取れるまでは数回の再テストを受けること。それにより定期試験に加算をする。 受けない場合は減点対象となる。			
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、次回講義での対応とする。			

科目	医療的ケア		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 緒方 まゆみ		授業形態 単位数	講義+演習 4単位
授業概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。医療的ケア実施の基礎として医療チームとの連携のもとで健康状態の把握、高齢者及び障がい児・者への喀痰吸引・経管栄養の概論を理解し、その上で実施手順を清潔保持、感染防止法とともに修得する。基本の講義の後に口腔、鼻腔、および気管カニューレ内の喀痰吸引操作ができるようになる。胃瘻または腸瘻、経鼻による経管栄養の操作ができるようになる。 *この授業は看護師として7年以上の臨床経験を持つ教員が医療的ケアについて体験事例を交えながら教授する			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	医療的ケア実施の基礎として安全性、感染予防、健康状態把握のための知識を修得することができる。	DP1	定期試験および授業中の質問で、医療的ケアの基礎知識の理解が6割以上解答できること	
2.	喀痰吸引、経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解し、利用者のニーズに応えることができるようになる。	DP1	各項目の実施手順習熟度テストを行い8割以上の出来が認められなければ演習は受けられないものとする。	
3.	喀痰吸引、経管栄養の演習を実施する。その知識・技能をいかし多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようになる。	DP1	喀痰吸引、経管栄養の基礎演習項目が全て1人でできるようになる。基礎演習は5回行う	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（授業内容と学習成果、評価について） 人間と社会の理解、個人の尊厳、医療の倫理について学ぶ		倫理観についてどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や医療の倫理について復習する(2時間)
2.	保健医療制度とチーム医療 医療的ケアと医療チームとの連携について学ぶ		医療チームに入る他職種にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容やチーム医療職種について復習する(2時間)
3.	安全な療養生活のための清潔保持と感染予防 感染に関する事例をもとに、清潔・感染防止のために必要な演習を行う		清潔、消毒、感染等について調べる(2時間)	講義で学んだ内容や消毒と滅菌について復習する(2時間)
4.	健康状態の把握、バイタルサインと急変状態について バイタルサイン測定の方法について学ぶとともに、友人同士で実測演習を行う		他科目で習得しているバイタルサインについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容やバイタルサイン測定が実践できる(2時間)
5.	呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態 呼吸器に関する解剖生理を学び、異常呼吸等について学ぶ		他科目で習得している呼吸のしくみについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容や呼吸状態について復習する(2時間)
6.	喀痰吸引 人工呼吸器と吸引 DVD映像をもとに人工呼吸器について学ぶ 喀痰吸引の必要性について学ぶ		人工呼吸にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や人工呼吸について復習する(2時間)
7.	子どもの吸引、利用者や家族への対応、説明と同意 DVD、テキストを中心に子どもの喀痰吸引について学ぶ		子どもの身体的発達と家族の思いについて調べる(2時間)	講義で学んだ内容や説明と同意の現状について復習する(2時間)
8.	呼吸器系の感染と予防(吸引と関連して) 呼吸器系疾患や喀痰吸引との関係について学ぶ		感染にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や感染防止の決まりについて復習する(2時間)
9.	喀痰吸引と安全確認、急変・事故発生時の対応 安全や急変事故について事例をもとに学ぶとともに医療職との連携方法についても学ぶ		安全確認や危機管理について調べる(2時間)	講義で学んだ内容やヒヤリハットについて復習する(2時間)
10.	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施について 喀痰吸引を必要とする高齢者や障害児・者の特徴について学ぶ		高齢者や障がい者の身体的特徴について調べる(2時間)	講義で学んだ内容や高齢者や障がい者の特徴について復習する(2時間)
11.	吸引器具・機材のしくみ、清潔操作、報告と記録 喀痰吸引で使用する器具に触れて名称等を覚える		テキストを読み機材の名称等を知っておく(2時間)	講義で学んだ内容や器具機材の名称を覚える(2時間)
12.	喀痰吸引のケア実施の手引き DVD、テキストを中心に喀痰吸引の細部にわたる注意事項の説明		テキストを読み喀痰吸引の内容を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や吸引手順を覚える(2時間)
13.	口腔内、鼻腔内吸引の通常手順 DVD、テキストを中心に喀痰吸引の手順を学ぶ		テキストを読み喀痰吸引の内容と手順を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や口腔鼻腔吸引の手順を覚える(2時間)
14.	気管カニューレ内部 気管カニューレ装着者にはどのような人がいるかを考え、カニューレ内吸引の原則について学ぶ		テキストを読み喀痰吸引の内容と気管カニューレについて調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や気管カニューレ内部の吸引手順を覚える(2時間)
15.	人工呼吸器装着者の吸引手順 非侵襲的人工呼吸(酸素マスク)を中心に手順や注意項目について学ぶ		テキストを読み人工呼吸器について調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や人工呼吸器装着の人の吸引手順を覚える(2時間)
教科書	全国訪問看護事業協会編集「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」中央法規			
参考書	和田忠志「介護の現場で役立つ医療的ケアハンドブック」自由国民社 他 その他授業中に適宜紹介します			
学習成果の評価方法	定期試験(70%)、習熟度テスト(20%)、演習に取り組む姿勢(10%)等で総合的に評価します。 喀痰吸引「基本研修・演習」経管栄養「基本研修・演習」項目を一人で5回以上できるようにならないと合格できません。			
特記すべき事項	習熟度テストに合格しなければ最後の「基本研修・演習」は受けられないものとします。基本演習は法に則り行います。			
質問・相談等の受付	質問、相談などがあるときは授業終了後 直接質問に来てください。内容により即答、次回持越し、または研究室対応とします。研究室対応は金曜日16:30～17:30に行います。			

科目	医療的ケア		開講時期 履修方法	1年後期 必修、介護福祉士必修
担当者	教授 緒方 まゆみ		授業形態 単位数	講義+演習 4単位
授業概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。医療的ケア実施の基礎として医療チームとの連携のもとで健康状態の把握、高齢者及び障がい児・者への喀痰吸引・経管栄養の概論を理解し、その上で実施手順を清潔保持、感染防止法とともに修得する。基本の講義の後に口腔、鼻腔、および気管カニューレ内の喀痰吸引操作ができるようになる。胃瘻または腸瘻、経鼻による経管栄養の操作ができるようになる。 *この授業は看護師として7年以上の臨床経験を持つ教員が医療的ケアについて体験事例を交えながら教授する			
	到達目標	該当するDP番号	学習成果の評価基準	
1.	医療的ケア実施の基礎として安全性、感染予防、健康状態把握のための知識を修得することができる。	DP1	定期試験および授業中の質問で、医療的ケアの基礎知識の理解が6割以上解答できること	
2.	喀痰吸引、経管栄養の基礎的知識と実施手順を理解し、利用者のニーズに応えることができるようになる。	DP1	各項目の実実施手順習熟度テストを行い8割以上の出来が認められなければ演習は受けられないものとする。	
3.	喀痰吸引、経管栄養の演習を実施する。その知識・技能をいかし多面的に考察し、様々な状況に対応することができるようになる。	DP1	喀痰吸引、経管栄養の基礎演習項目が全て1人でできるようになる。基礎演習は5回行う	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
16.	消化器系のしくみとはたらき 消化器に関する解剖生理を学び、消化器症状等について学ぶ		他科目で習得している消化器系しくみについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容や消化器系のしくみについて復習する(2時間)
17.	消化・吸収とよくある消化器の症状 テキストや参考図書を参考に消化器症状の正常と異常について学ぶ		他科目で習得している消化器系しくみについて復習をして臨む(2時間)	講義で学んだ内容や消化器症状について復習する(2時間)
18.	経管栄養とは テキストや参考図書を中心に経管栄養について学び、なぜ必要なのかについて考える		テキストを読み経管栄養について調べる(2時間)	講義で学んだ内容や経管栄養について復習する(2時間)
19.	注入する内容に関する知識 経管栄養の目的を学んだうえで注入する栄養について学ぶ		経管栄養で使用する栄養剤について調べる(2時間)	講義で学んだ内容や注入する内容が理解できる(2時間)
20.	経管栄養実施上の留意点 DVD、テキストを中心に経管栄養実施上の留意点について事例を参考に学ぶ		テキストを読み経管栄養実施について調べる(2時間)	講義で学んだ内容や実施留意点について復習する(2時間)
21.	経管栄養に関係する感染と予防 感染に関する事例をもとに、清潔・感染防止のために必要な演習を行う		感染にはどのようなものがあるか調べる(2時間)	講義で学んだ内容や感染について復習する(2時間)
22.	経管栄養を受ける利用者や家族への対応、説明と同意 利用者や家族になったつもりで心情や対応についてグループワークディスカッションを行う		経管栄養を受ける利用者や家族の思いについて調べる(2時間)	講義で学んだ内容や説明と同意の現状について復習する(2時間)
23.	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 消化器の解剖生理をもとに、関連する異常症状や安全確認について学ぶ		経管栄養によるヒヤリハットについて調べる(2時間)	講義で学んだ内容や安全確認について復習する(2時間)
24.	急変・事故発生時の対応と事前対策 DVDやテキストを中心に危機管理やヒヤリハットについて学ぶ		安全確認や危機管理について調べる(2時間)	講義で学んだ内容やヒヤリハットについて復習する(2時間)
25.	経管栄養での器具・機材のしくみと清潔の保持 経管栄養で使用する器具に触れて名称等を覚える		テキストを読み機材の名称等を覚えておく(2時間)	講義で学んだ内容や機材の名称を覚える(2時間)
26.	経管栄養のケア実施の手引き テキストを中心に基本研修の手順を学ぶ		テキストを読み経管栄養の内容を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容やケア実施の手順を覚える(2時間)
27.	報告及び記録の書き方 医療職との連携について学び、わかりやすい報告の仕方、記録の書き方を学ぶ		テキストを読み報告や記録の内容を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や報告記録の仕方を覚える(2時間)
28.	胃瘻・腸瘻、または経鼻による経管栄養 DVD、テキストを中心に経管栄養の手順を学ぶ		テキストを読み経管栄養の内容と手順を調べておく(2時間)	講義で学んだ内容や経管栄養の手順を覚える(2時間)
29.	まとめと集中講義 今までに行った習熟度テストを見直し基本演習に備える		前回までの内容を振り返り質問等があればあげておく(2時間)	講義で学んだ内容をまとめすべての手順を覚える(2時間)
30.	喀痰吸引、経管栄養の実技演習		テキストを読み実技演習に臨む(2時間)	全体を把握し期末試験に臨む(2時間)
教科書	全国訪問看護事業協会編集「介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト」中央法規			
参考書	和田忠志「介護の現場で役立つ医療的ケアハンドブック」自由国民社 他 その他授業中に適宜紹介します			
学習成果の評価方法	定期試験(70%)、習熟度テスト(20%)、演習に取り組む姿勢(10%)等で総合的に評価します。 喀痰吸引「基本研修・演習」経管栄養「基本研修・演習」項目を一人で5回以上できるようにならないと合格できません。			
特記すべき事項	習熟度テストに合格しなければ最後の「基本研修・演習」は受けられないものとします。基本演習は法に則り行います。			
質問・相談等の受付	質問、相談などがあるときは授業終了後 直接質問に来てください。内容により即答、次回持越し、または研究室対応とします。研究室対応はオフィス時間にいつでも対応します			

科目	キャリア形成ゼミ（前期）		開講時期 履修方法	1年前期 必修
担当者	教授 大川 絹代 教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>社会人基礎力を学び生涯必要とする職業能力を身に付ける。地域貢献として地域で暮らす方々とのコミュニケーションケアを目指す。</p> <p>社会人・介護福祉職・保育職として必要なテーマを調査研究を行ないレポート・パワーポイントを発表する。また、バズセッションを行い質疑や感想を伝える。地域貢献は学生主体で実践する。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	社会人基礎力を学び、学生生活や社会人として活用できるようにする。	DP4	コミュニケーション能力、チーム力、リーダーシップ力、表現方法文章作法を身につける。プレゼンテーション能力を高める。	
2.	対象者の尊厳を護り、思いやりと感謝の気持ちで状況に応じた対応能力を身に付ける。	DP3	状況に応じた言葉遣い・挨拶等社会人としてのマナーの知識と実践ができ、対人関係に対して尊厳や思いやりのある配慮ができる。	
3.	介護福祉士国家試験に向けて、自主学习や学習に意欲的になる。	DP2	介護福祉士国家試験合格を目指し、5回の模擬試験や対策講座に積極的に参加するだけでなく、自主学习に努める。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション（学習成果、評価方法、評価基準） キャリア形成ゼミ・キャリア形成プログラムの意義		シラバスに目を通しておく（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
2.	建学の精神を考えるー1年後の自分を見つめて職業観・就労観		予習課題（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
3.	レポート・論文の書き方等文章作法		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
4.	プレゼンテーション能力		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
5.	自己管理能力ーより良い学生生活を送るため		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
6.	日常生活での礼儀作法ー対人コミュニケーション能力のスキルアップ		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
7.	介護実習施設での言葉遣い		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
8.	せいかよかよか倶楽部ー 博多南ディサービス・くまクリニックディケアサービス		チームでレクリエーション内容を話し合う（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
9.	せいかよかよか倶楽部ー 博多南ディサービス・くまクリニックディケアサービス		チームでレクリエーション内容を話し合う（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
10.	チームワーク力		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
11.	リーダーシップ力		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
12.	介護保険制度ー介護保険制度の仕組み		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
13.	介護実習 直前指導		介護実習について予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
14.	レクリエーション、国家試験対策講座		チームでレクリエーション内容を話し合う（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
15.	高齢者擬似体験、福祉用具・住宅改修見学		福祉用具・住宅改修について予習する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
教科書	特にありません。			
参考書	授業中に説明			
学習成果の評価方法	レポート・パワーポイント作成及び発表（70%）、授業参加の態度（30%）			
特記すべき事項	テーマに関連した書籍を3冊以上参考文献とする。チームでレポート・パワーポイント作成に取り組む。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16:30～17:30）にお出でください。			

科目	キャリア形成ゼミ（後期）		開講時期 履修方法	1年後期 必修
担当者	教授 大川 絹代 教授 角 眞由美		授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>社会人基礎力を学び生涯必要とする職業能力を身に付ける。地域貢献として地域で暮らす方々とのコミュニケーションケアを目指す。</p> <p>社会人・介護福祉職・保育職として必要なテーマを調査研究を行ないレポート・パワーポイントを発表する。また、バズセッションを行い質疑や感想を伝える。地域貢献は学生主体で実践する。</p>			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	社会人基礎力を学び、学生生活や社会人として活用できるようにする。	DP 4	コミュニケーション能力、チーム力、リーダーシップ力、表現方法文章作法を身につける。プレゼンテーション能力を高める。	
2.	対象者の尊厳を護り、思いやりと感謝の気持ちで状況に応じた対応能力を身に付ける。	DP 3	状況に応じた言葉遣い・挨拶等社会人としてのマナーの知識と実践ができ、対人関係に対して尊厳や思いやりのある配慮ができる。	
3.	介護福祉士国家試験に向けて、自主学習や学習に意欲的になる。	DP 2	介護福祉士国家試験合格を目指し、5回の模擬試験や対策講座に積極的に参加するだけでなく、自主学習に努める。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	講演会－介護施設説明会・地域で暮らす障害者の現実と未来・先輩からのメッセージ		シラバスに目を通しておく（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
2.	文章表現－介護計画・実習日誌・介護職実践セミナーを視野にして		介護実習 を振り返る（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
3.	せいかよかよか倶楽部－日の出町公民館・そよかぜ人の駅		チームでレクリエーション内容を話し合う（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
4.	問題解決能力		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
5.	災害時の介護－ 介護・障害者施設、避難施設での対応		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
6.	介護職・保育職における職業倫理について		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
7.	論理的思考		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
8.	自己管理能力－社会人基礎力		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
9.	地域福祉を考える－障害者総合支援法		キャリア形成プログラムの手順表を熟読する（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
10.	介護職実践セミナー開催		介護職実践セミナー当日をイメージする（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
11.	介護福祉士国家試験対策－第1回模擬試験		苦手な科目を見直す（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
12.	介護福祉士国家試験対策－第2回模擬試験		苦手な科目を見直す（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
13.	介護福祉士国家試験対策－第3回模擬試験		苦手な科目を見直す（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
14.	介護福祉士国家試験対策－第4回模擬試験		苦手な科目を見直す（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
15.	介護福祉士国家試験対策－第5回模擬試験		苦手な科目を見直す（30分）	今回学んだ内容について復習する（30分）
教科書	介護福祉士国家試験参考書			
参考書	授業中に説明			
学習成果の評価方法	レポート・パワーポイント作成及び発表（70%）、授業参加の態度（30%）			
特記すべき事項	テーマに関連した書籍を3冊以上参考文献とする。チームでレポート・パワーポイント作成に取り組む。模擬試験5回は必ず受けること。			
質問・相談等の受付	研究室に掲示しているオフィスアワー（月・水・木曜日16:30～17:30）にお出でください。			

科目	保育原論		開講時期 履修方法	1年後期 必修
担当者	専任講師 古林 ゆり		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	保育者養成課程で学んだ子どもの理解、保育の内容と方法、対人援助に関するスキルを基礎とし、現代的課題である保育制度や保護者支援・子育て支援などの学びをグループワークを通して深める。また、「対人援助職（エッセンシャルワーカー）」としての保育者の役割を理解し、知識・技術および実践力を修得する。			
	到達目標	該当する DP番号	学習成果の評価基準	
1.	保育士養成課程で学んだ保育に関する諸理論の理解を深めることができる。	DP2,3	試験において、保育に関する諸理論の内容に関して6割以上解答できる（テスト）。	
2.	現代における保育実践上の課題を明確にし、それを解決するための指導力を身につけることができる。	DP2,3	グループ学習を通して、保育に関する諸課題を明確にし、協働してその解決のためのレポートを作成する。	
3.	乳幼児の保育と介護福祉の接続を踏まえ、実践を展開できる力を形成することができる。	DP4	対人援助職としての役割を踏まえ、教材研究をし、教材製作や保育活動を実践できる。	
	授業計画（授業内容）		授業時間外学習	
			予習（必要時間）	復習（必要時間）
1.	オリエンテーション・学習成果について（評価方法及び評価基準）		シラバスを読み授業内容について確認する。保育に関する書籍等で事前学習をしておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
2.	保育とは；保育の意義、保育者としての資質と専門性		保育に関する内容について、保育所保育指針解説などを読んで復習をしておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
3.	子ども理解；発達の道筋を踏まえた発達課題の理解		乳幼児の発達過程に関する内容について、書籍等で事前学習を行っておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
4.	子ども理解；保育実践の方法の理解、保育実践上の課題		保育実践の方法に関する内容について、書籍等で事前学習を行っておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
5.	育ち合う保育の実際；乳幼児の生活への関わり グループ学習・あそび等の発表		乳幼児の生活に関する内容について、書籍等で事前学習を行っておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
6.	育ち合う保育の実際；乳幼児のあそびへの関わり グループ学習・あそび等の発表		乳幼児のあそびに関する内容について、書籍等で事前学習を行っておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
7.	育ち合う保育の実際；子ども同士の関わりと育ち グループ学習・あそび等の発表		子ども同士の関わりに関する内容について、書籍等で事前学習を行っておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
8.	保育者の課題（対人援助職として）；子どもの要求と保育者の要求 グループ学習・あそび等の発表		保育における子どもや保育者のニーズに関して書籍などから情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
9.	保育者の課題（対人援助職として）；気になる子どもの保育 グループ学習・あそび等の発表		気になる子どもの保育に関する内容について、書籍等で事前学習を行っておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
10.	保育者の課題（対人援助職として）；保育者集団の協働性と同僚性 グループ学習・あそび等の発表		保育者集団の協働性に関する内容について、書籍等で事前学習を行っておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
11.	保護者支援と子育て支援について；子育て環境の実態と、保護者支援の必要性について グループ学習・あそび等の発表		保護者支援に関する内容について、書籍等で情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
12.	保育サービスの評価；情報開示、苦情解決 グループ学習・あそび等の発表		保育サービスに関する内容について、書籍等で情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
13.	これからの保育を学ぶ；子どもや保護者を取り巻く生活・保育の現状理解		子どもを取り巻く社会に関する内容について、書籍等で情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
14.	これからの保育を学ぶ；日本の保育情勢と外国の保育制度		日本の保育情勢に関する内容について、書籍等で情報を得ておく（2時間）	今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと（2時間）
15.	子どもと保育者の育ち まとめとテスト		試験に向けての準備とこれまでの授業内容の振り返りを行なう（2時間）	これまでの授業で学んだ内容をまとめておくこと（2時間）
教科書	使用しません。（授業時に適宜資料を配布）			
参考書	授業中に適宜紹介します。			
学習成果の評価方法	定期試験（50％）、提出課題、プレゼンテーション（40％）、授業への参加姿勢（10％）で評価します。小テストと課題についてはフィードバックした上で返却します。			
特記すべき事項	遅刻、早退、欠席は、必ず本人が直接理由を申し出てください。積極的な授業参加をお願いします。			
質問・相談等の受付	質問などがある場合は、オフィスアワー（火曜日 10:30~14:30）に担当教員の115研究室へ来てください。			